

令和元年度実施

平成30年度教育委員会事務事業点検・評価報告書

令和元年8月

海陽町教育委員会

目 次

1	実施方法	1
	(1) 点検及び評価の対象について	1
	(2) 点検及び評価の方法	1
	(3) 評価結果の取扱いについて	1
	(4) 評価スケジュール	1
2	教育委員会の活動状況	2
	(1) 教育委員会の組織	2
	(2) 教育委員会の会議の開催状況	2
	(3) その他の活動	3
	① 会議・研修会等	3
	② 行事等	3
	③ 学校訪問	3
	④ その他	3
3	点検及び評価結果	4
4	外部評価委員会の意見	5 1

【資料】

資料 1	海陽町第 2 期教育振興計画体系	5 6
資料 2	海陽町教育委員会外部評価委員会設置要綱	5 7

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」（昭和31年法律第162号）が、平成19年6月に公布され、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月1日から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

このことから、海陽町教育委員会は、この規定を受け、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施し、報告書をまとめました。

今後とも町教育行政の更なる充実に向けた取り組みの推進に努めて参りますので、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

1 実施方法

(1) 点検及び評価の対象について

点検及び評価の対象とする事業は、平成30年度海陽町教育基本方針に定める各施策に基づいて実施した事業を対象として行います。

(2) 点検及び評価の方法

教育委員会事務局において、各事業ごとに取り組んだ実績を整理し、一次評価を行います。一次評価は、事業所管係で評価管理シートを用い、次の評価基準（表1）により行います。

次に、点検・評価内容の客観性を確保するために教育に関して学識経験者を有する外部評価委員（外部評価委員名簿 表2）に二次評価をいただきます。

評価基準（自己評価）

表1

達成度評価	
計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている	A
ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている	B
計画通りではなかったが、事業目的は達成した。	C
計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。	D

外部評価委員名簿

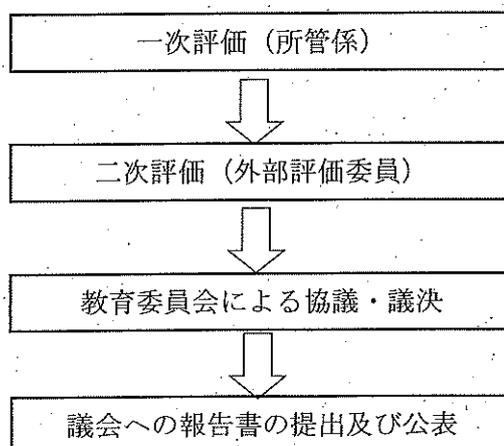
表2

事務点検・評価委員名	役職等
叶崎 正	元教育委員
登井 啓文	元小学校長

(3) 評価結果の取扱いについて

教育委員会が行う事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてとりまとめ、毎年9月開会の町議会定例会に提出し、公表するとともに、翌年度における施策、事業の改善に役立てるものとします。

(4) 評価スケジュール



2. 海陽町教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の組織

○教育委員会委員の就任状況（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

平成31年3月31日現在

氏名	役職	異動状況
三浦 良	教育長	平成30年6月21日 就任
富田 充宏	教育長職務代理者	平成30年6月25日 教育長職務代理者 就任
ラフォンテーヌ裕子	教育委員	
木戸口 貢 淳	教育委員	
西宮 治	教育委員	平成30年5月27日 就任

※岡田 啓 教育長 平成30年6月19日 退任

※富田 充宏 教育長職務執行者 平成30年6月20日 就任

※西本 公明 教育委員長 平成30年5月26日 退任

(2) 教育委員会の会議の開催状況等

毎月1回定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催

	開催日	議案	協議事項	報告事項	計
第1回定例会	平成30年4月23日	1	2	4	7
第2回定例会	平成30年5月28日	2	3	8	13
第1回臨時会	平成30年6月9日		1	1	2
第3回定例会	平成30年6月25日	1	2	7	10
第2回臨時会	平成30年7月13日	1			1
第4回定例会	平成30年7月24日	1	3	8	12
第5回定例会	平成30年8月27日		3	10	13
第6回定例会	平成30年9月26日		3	9	12
第7回定例会	平成30年10月24日	1	3	2	6
第8回定例会	平成30年11月7日	2	3	2	7
第9回定例会	平成30年12月19日		3	5	8
第10回定例会	平成31年1月23日		5	1	6
第3回臨時会	平成31年2月1日	1			1
第11回定例会	平成31年2月20日		3	6	9
第4回臨時会	平成31年3月7日	1			1
第12回定例会	平成31年3月27日	2		8	10
計		13	34	71	118

(3) その他の活動

①会議・研修会等

時 期	名 称	概 要
平成30年 4月	徳島県市町村教育委員会教育行政連絡協議会	平成30年度徳島県教育重点施策について(年1回開催)
	徳島県市町村教育委員会連合会定期総会・研修大会	徳島県市町村教育長会合同理事会を受けた定期総会及び研修大会(年1回開催)
平成30年 9月	市町村教育委員研究協議会	教育委員会運営の活性化に資するため、岡山市で開催された文科省主催の教育委員研究協議会に参加し教育及び教育行政全般について理解を深めた。分科会では「地域と学校の連携・協働について」に出席。
平成30年11月	徳島県・市町村教育委員会教育委員等研修会	教育委員会制度の理念や教育及び教育行政に関する理解と見識をより深め、教育を取り巻く諸問題に的確に対応し、教育行政の円滑な推進を図る。

②行事等

時 期	名 称	概 要
平成30年 4月	幼小中学校入学式	幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席
平成30年9月～10月	幼稚園、小中学校体育祭・運動会	幼稚園、小学校3校、中学校2校に分散し出席
平成31年 1月	成人式	男性63名、女性51名、計114名の成人式典に参加。
平成31年 3月	幼小中学校卒業式	幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席

③学校訪問

時 期	名 称	概 要
平成30年10月	町教委学校訪問	1園、3小学校、2中学校へ3日間訪問

④その他

時 期	名 称	概 要
平成30年8月	新給食センター 給食試食会	9月給食提供に向け、100食を作り、保護者等を対象とした試食会に参加
平成30年10月	総合教育会議	町長と教育委員会が地域の教育課題やあるべき姿を共有し、より一層民意を反映した教育行政の推進を図る。今回は、特に回帰型奨学金制度の検討ほか

3. 点検及び評価結果

(1) 点検及び評価事業一覧

評価番号	事業名	教育振興計画の体系	事業所管係
1	土曜学習の推進	基本方針1・2・5	学校教育
2	コミュニティ・スクールの充実（学校運営協議会の活用）	基本方針1・3	学校教育
3	放課後子ども教室の運営	基本方針1	社会教育
4	青少年健全育成活動の推進	基本方針1・2	社会教育
5	定期補導活動	基本方針1・2	社会教育
6	成人式	基本方針1	社会教育
7	学校活性化協議会	基本方針1・3	学校教育
8	特別支援教育の充実（巡回相談員の配置）	基本方針2・4	学校教育
9	町費助教諭と特別支援教育支援員の配置（個に応じた指導の実施）	基本方針2	学校教育
10	学力向上推進	基本方針2	学校教育
11	幼児教育の充実	基本方針2	学校教育
12	通学補助金交付	基本方針2	学校教育
13	町内園校長会の開催	基本方針2	学校教育
14	学校図書館の充実	基本方針2	学校教育
15	中学校部活動運営（合同体制）の充実	基本方針2	学校教育
16	地元高校魅力化推進補助	基本方針2	学校教育
17	スクールバス運営	基本方針2	学校教育
18	学校施設整備	基本方針2	学校教育
19	エアコン整備	基本方針2	学校教育
20	学校給食の充実（給食センター運営・海南給食センター解体）	基本方針2	学校教育
21	食育の推進	基本方針2	学校教育
22	防災教育の推進	基本方針2	学校教育
23	町奨学金貸与・奨学金返還助成制度	基本方針2	学校教育

24	子どもあゆみ活用	基本方針 2	学校教育
25	就学援助	基本方針 2	学校教育
26	公民館活動	基本方針3	社会教育
27	社会教育施設の充実（公民館・体育施設も含む）	基本方針3	社会教育
28	図書館の運営の充実	基本方針3	社会教育
29	文化館の運営の充実	基本方針3・1・2	社会教育
30	文化館自主事業	基本方針3	社会教育
31	文化協会	基本方針3	社会教育
32	文化村祭	基本方針3	社会教育
33	生涯教育の振興と充実	基本方針3	社会教育
34	新春ふれあい駅伝大会運営	基本方針3	社会体育
35	総合型スポーツクラブ運営補助	基本方針3	社会体育
36	体育協会助成	基本方針3・1	社会体育
37	人権教育の推進	基本方針 4	社会教育
38	いじめ・不登校防止	基本方針 4	学校教育
39	博物館の運営の充実	基本方針 5・1・ 2・3	社会教育
40	文化財保護・活用	基本方針 5	社会教育
41	グローバル教育の推進	基本方針 6・2	学校教育
42	I C T教育の推進	基本方針 6・2	学校教育
43	キャリア教育の推進	基本方針 6	学校教育
44	教職員の資質向上	基本方針 6・2	学校教育
45	学校閉庁日	基本方針 6	学校教育

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		1
事業名	土曜学習の推進			教育振興計画の体系 基本方針1・2・5
事業費(千円)	647	所管係	学校教育係	
事業目的	学校、家庭、地域社会が連携し、さまざまな体験活動を行うことにより、「生きる力」を育成する。			
事業内容(Plan)	教育委員会が主体となり小中学生を中心に据えて、地域の人々を巻き込みながら行う活動。地域の教育力を生かし、地域と一体となって地域の人材や自然、文化財等の豊かな社会資源を活用し、地域に根ざした体験活動や交流活動を行う。			
事業の実施状況及び成果等(Do)	<p>平成30年度は、大別して3種類7事業を実施した。</p> <p>1. 学校と連携した事業 ①防災学習(72) ②文化財巡り(86) ③English Day Camp in KAIYO(133)</p> <p>2. 地域住民(家庭)と一緒に活動した事業 ④星空観察会(30) ⑤お城めぐり(25)</p> <p>3. 「あったかいよう」との提携事業 ⑥いちご大福とミニカップケーキづくり(32) ⑦おもちつき(26) ()内は参加者数。②の文化財めぐりは台風接近のため中止となった。</p> <p>○子どもたちが地域を知り、地域を愛し、誇りを持つきっかけとなった。 ○他校および異校種間の児童生徒の交流が図れた。 ○地域の人たちとの協働ができ、地域ぐるみで子どもを育てる関心・意欲が見られた。 ○文化財巡りが台風接近のため中止となったが、日を変えて等の実施が今後の課題である。</p>			
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針(Action)	引き続き、土曜学習を実施し、地域を巻き込んだ体験活動を充実させていきたい。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次(外部)評価	土曜学習は、子どもたちが地域を知り、地域に愛着を持つきっかけとなっている。また、地域ぐるみで子どもを育てる環境作りにもなっている。これからも子どもたちの教育課題に合った土曜学習を続けていって欲しい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		2
事業名	コミュニティ・スクールの推進・充実		教育振興 計画の体 系	基本方針1 ・3
事業費 (千円)	711	所管係	学校教育係	
事業目的	保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」制度の導入により、地域の力を学校運営や児童生徒の育成に生かす「地域とともにある学校づくり」を推進する。			
事業内容 (Plan)	コミュニティ・スクールを平成30年度に町内の全小中学校に指定している。各校には学校運営協議会が設置され、地域とともに教育活動を展開している。			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>学校運営協議会を定期的開催し、学校と保護者及び地域住民と学校運営や児童生徒の状況に関する情報交換や地域の教育力を生かした活動が行われている。そのことで、学校と保護者及び地域住民との信頼関係を深めるとともに、学校運営の改善や生徒指導上の課題解決、学力向上にも成果が表れている。</p> <p>また、学校評価に委員の意見を反映させることで、学校関係者評価が効果的に実施され、次年度に向けて改善を図ることができている。</p>			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	引き続き、コミュニティ・スクールを実施し、地域とともにある特色ある学校づくりを目指す。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	町内すべての小中学校にコミュニティスクール（学校運営協議会）が設置され、学校と保護者及び地域住民と学校運営や子どもたちの状況について情報交換ができている。さらに、地域の教育力を生かした学校づくりを推進して欲しい。また、それぞれのコミュニティスクールの運営等の情報交換や特色ある取り組みについての共有もはっきり図って欲しい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		3
事業名	放課後子ども教室の運営			教育振興 計画の体 系
事業費 (千円)	14,317	所管係	社会教育係	
事業目的	放課後に小学校児童を一時的に預かり、昼間仕事に従事する保護者に代わって、地域住民である指導員が見守り役をすることで、児童の安全、安心な居場所を提供する。			
事業内容 (Plan)	<p>○放課後に、各種指導員のもと、町内3小学校の児童が社会教育施設、体育館、校庭等を活用し、安全な環境で学習活動、校外活動などに取り組んでいる。</p> <p>※対象児童・・・町内に在籍する児童（1年生～6年生）</p> <p>※開所日・・・月曜日～金曜日（祝祭日、長期休みは除く）</p> <p>※開所時間・・・14時30分～17時（ただし、冬季は16時30分）</p> <p>※利用料・・・年間800円（保険代）</p> <p>※開催場所・・・海南地区 海南こども館 海部地区 奥浦老人福祉センター 穴喰地区 穴喰ドリーム館</p>			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>○開室している3箇所全体で、200名余りの児童が参加登録しており、年間で190日前後実施している。</p> <p>○放課後子ども教室では、異学年が入り交じって遊ぶことのできる環境が提供できるため、低学年の面倒を高学年がみる等、健全な人間形成の場としての機能がある程度果たしている。</p> <p>○学校の先生とは違う見守り役としての地域住人である指導員との間のふれあいも世間一般的に希薄になりつつある地域社会との絆作りの意味で果たす役割は大きい。</p> <p>○各月の予定表を作るのはコーディネーターの重要な仕事で、学校長とコーディネーター、町教育委員会の担当が定期的集まり、活動状況等の情報交換を行う。また、指導員は外部の研修会へも参加することで現場活動に生かしている。</p>			
一次（内部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針 (Action)	子どもたちの利便性を高め、より安全・安心な活動ができるように、現在使用している施設から順次、地区内の小学校の空き教室を利用するように準備を進めていきたい。 ALT等ネイティブによる英語の学習活動も今秋9月から開始する予定である。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外部）評価	3つの教室共に子どもたちの安全安心な居場所になっている。将来を見据えて、指導員の確保も計画的にやって欲しい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	4
事業名	青少年健全育成活動の推進		教育振興 計画の体 系	基本方針 1・2
事業費 (千円)	229	所管係	社会教育係	
事業目的	青少年健全育成の推進のため、地域ぐるみでの健全育成への取り組みを図っている。家庭、地域の連携を通じた青少年の健全育成や、様々な奉仕・体験活動を通じた地域健全育成活動を推進する。			
事業内容 (Plan)	児童生徒の情報を共有し密に連携が取れるよう青少年育成海陽町民会議の運営委員が集まる会議や長期休業前の情報交換会を行っている。また地域の子どもを見守り育てる町内非行防止パレード、こども俳句の文化祭展示、豊かな心と郷土愛を育むような活動を行っている。			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>定期的に情報交換会を行い、児童・生徒の情報交換を行う場を設けている。そのときに児童・生徒の情報のみだけでなく、他校の懸案事項やそれに対する取り組み等の情報も聞ける良い機会となっている。他校の状況も知ること自校の事前対策にもつながっている。地域の方々も会議に参加していただき、登下校の見守りなども行ってくれている。防災学習等の活動にもボランティアとして参加してくれており、地域で子どもを見守り育てるという意識が根付いている。</p> <p>○総会研修会（1回） ○情報交換会（3回） ○防災学習（1回） ○文化財巡り（悪天候のため中止） ○文化祭俳句の展示 ○防犯パレード（1回） ○登下校の見守り、立哨のための横断旗購入。</p>			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	引き続き、地域ぐるみで児童・生徒を見守っていつてもらえるような取り組みを行っていきたい。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	青少年育成海陽町民会議による様々な取り組みは、「地域の子どもは地域で守り育てる」活動となっている。これからも引き続き、取り組んで欲しい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号 5	
事業名	定期補導活動		教育振興計画の体系 基本方針 1・2
事業費 (千円)	0	所管係	社会教育係
事業目的	防犯パトロールを計画的に推進し、犯罪・事故による少年の被害を未然に防止するとともに地域の犯罪防止機能を高める。		
事業内容 (Plan)	<p>・定期補導を通じて、通常補導活動の強化、補導員活動の強化で地域の充実を図る。また、防犯パトロール等により①～③を図る</p> <p>①犯罪・事故・災害の未然防止 ②地域の犯罪と防止機能の高揚 ③地域の連帯感の強化。</p> <p>・青少年町民育成会議を定期的に開催し、町民総ぐるみ運動への協力関係を図る。</p>		
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>○各団体等の協同活動を行い、健全育成活動の推進を図る。</p> <p>①定期補導活動の実施 ・毎月第3金曜日に実施（6回）</p> <p>②祭礼時補導活動（2回）</p> <p>③学校行事（入学式・卒業式・文化祭・放課後子ども教室・オープンスクール）に参加</p> <p>※定期補導を通じて、情報収集活動や各学校との連絡・連携活動・地域の犯罪防止の高揚が図れた。</p> <p>※町民育成会議を通して、各学校との連絡、関係団体等との協同、地域の連帯感の強化に繋がった。</p>		
一次 (内部) 評価 (Check)	事業の達成度評価		
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている	
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている	
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。	
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。		
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針 (Action) 各関係諸団体と密接な連絡を取り、より一層犯罪・事故・災害の未然防止に努める。
	○	継続	
		縮小	
		見直し	
		休廃止	
二次 (外部) 評価	定期補導により、青少年の健全育成が図られている。子どもたちとの交流活動も一層進めてもらいたい。		

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		6
事業名	成人式		教育振興計画の体系	基本方針1
事業費(千円)	642	所管係	社会教育係	
事業目的	町をあげて人生の節目を祝うことで、ふるさとに誇りを持ち、厳しい時代に打ち勝つ逞しい社会人になるとともに、将来の地域の担い手として大きく前進することを願って実施する。			
事業内容(Plan)	式典の対象となる新成人に企画から運営まで関わってもらうことで、新成人としての自覚を持ち、家族はもとより今まで関わってくださった多くの人々に感謝し、主体性と責任感を持ち合わせた人間として育つよう、思い出の残る充実した成人式を実施する。			
事業の実施状況及び成果等(Do)	<p>8月に新成人と打合せ会を開催し、記念品の選定・式典当日の役割分担（司会等）の協議や、司会者との年末のリハーサルなど、新成人と企画段階から関わりを持つことで信頼関係も深まり、スムーズな式典運営が図れている。</p> <p>また、新成人が企画段階から運営まで携わることで自らも責任感等が芽生え、それが式典の進行や雰囲気にも良い影響を与えている。さらに、成人者の多くが参加していることから、その成果が伺える。</p> <p>成人式対象者数 114名 参加者数 86名 (平成29年度111名) (平成29年度94名)</p>			
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針(Action)	<p>新成人が企画運営に携わる良い伝統を継承しつつ、今後も思い出の残る良い成人式を新成人とともに考え運営していく。</p> <p>また、成年年齢引下げ等の問題については、国の指針(情報等)や、他市町村の動向等も踏まえ検討を進めていく。</p>
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次(外部)評価	新成人が企画から運営までに関わっており、主体的な素晴らしい成人式となっている。また、参加者数も多く、目的も達成できている。二次評価はAである。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	7
事業名	学校活性化協議会		教育振興 計画の体 系	基本方針1 ・3
事業費 (千円)	195	所管係	学校教育係	
事業目的	海陽町教育委員会の権限と責任の下、海陽町内の各学校および教育全般の諸課題について学校運営の改善や児童生徒の健全育成および町全体の教育内容の向上について取り組む。			
事業内容 (Plan)	大きく3つの役割をもつ。一つ目は、各小中学校の学校運営協議会の要としての役割である。二つ目は、町全体の教育課題を協議する役割である。三つ目は、土曜学習のまとめとしての役割である。そのため、中学校長2名、小学校長3名、小中PTAから1名ずつ、有識者5名と教育長、教育次長、CSディレクター、CS担当職員の16名で会を構成し運営をした。主な教育課題としては、各小中学校の運営上の諸課題、海部高校の魅力化推進、土曜学習の在り方、等があげられる。			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>年間を通じて5回の会を開催した。主な協議内容を挙げる。</p> <p>第1回（5月） 組織の立ち上げ 各小中学校の本年度スタート状況</p> <p>第2回（7月） 各小中学校の学校運営協議会立ち上げ状況、夏休み中の土曜学習の計画状況、海部高校の魅力化について</p> <p>第3回（8月） 海部高校校長中島康男氏を招いての話し合い、海部高校説明会の実施の決定</p> <p>第4回（10月） 夏休み中の土曜学習の実施状況報告、コミュニティスクール研修会への参加について海部高校説明会開催にあたっての最終確認（11/7実施 参加者67名） 11月実施の土曜学習について</p> <p>第5回（2月） 今年度の反省と各学校運協議会活動報告</p>			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	規則と委員構成について見直しをはかり、今後の協議内容の充実を図っていきたい。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	各小中学校の運営上の諸課題や海部高校の魅力化推進、土曜学習の在り方等について様々な角度から意見交換ができ、子どもたちの健やかな成長につながっている。規則と委員構成について見直しをはかり、さらに協議内容を深めて欲しい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	8
事業名	特別支援教育の充実（巡回相談員の配置）		教育振興 計画の体 系	基本方針 2・4
事業費 （千円）	808	所管係	学校教育係	
事業目的	障がいにより特別な支援を必要とする児童生徒に対して、支援体系の整備促進を行い、将来的に社会に適応し、充実した生活を送ることができる力を育む。			
事業内容 （Plan）	(1) 特別支援連携協議会（年2回） ・ ・ ・ 地域を含めた関係機関が連携し、特別支援の整備促進を行う。 (2) 教育支援サポートチーム（年3回・研修会1回） ・ ・ ・ 特別支援学級等の就学についてのサポートを行う。 (3) 巡回相談員（言語聴覚士・小児科医） (4) 特別支援教育備品（難聴学級 補聴器購入）			
事業の実 施状況及 び成果等 （Do）	(1)～(4)について、以下の通り、適宜実施した。 (1) 特別支援連携協議会（年3回） (2) 教育支援サポートチーム（年3回・研修会4回） ・ ・ ・ 特別支援学級等の就学についてのサポートを行う。 (3) 巡回相談員（言語聴覚士・小児科医・臨床心理士） (4) 特別支援教育備品（難聴学級 補聴器購入） 地域連携協議会については発育ファイル作りの参考にするため、保護者に集まってもらい、意見を聞く機会を作った。サポートチームでは研修の機会を多く設け、特別支援担当の教員だけでなく、管理職や通常学級の担任にも出席して頂いた。内容についても姿勢の保持から、特別支援学級入級のための資料作りについて等、幅広い内容を開催できた。また、巡回相談員については学校からの要望が多い臨床心理士の巡回を追加し、保護者相談や教員の相談を実施した。			
一次（内 部）評価 （Check）	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性	○	拡充	今後の方 針 （Action）	今後も地域・学校を対象として、特別支援の理解、体制整備を促進していく。 巡回相談員について、臨床心理士の相談を増やしてほしいという要望が多いため、回数を増やしていく。 （2ヶ月1回→1ヶ月1回）
		継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	巡回相談員の助言により、支援を必要とする児童生徒の指導内容・方法や校内における支援体制づくりへに役立っている。ニーズがあるので相談回数の増やしてもらいたい。教育支援サポートチームの研修の回数も増やして欲しい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	9
事業名	町費助教諭と特別支援教育支援員の配置		教育振興計画の体系	基本方針2
事業費(千円)	58,650	所管係	学校教育係	
事業目的	言語・難聴・LD（学習障害）・ADHD（注意欠陥多動性障害）等の障害を有する、または介助を要するなど特別な支援を必要とする児童生徒の学校生活を支援し、特別支援教育の充実を図る。			
事業内容(Plan)	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする児童生徒の安心・安全の確保。周囲の児童生徒とのコミュニケーション作りを通して、学校生活を豊かに過ごせるよう支援する。 支援を必要とする児童生徒の人数・状況を把握し、県費教員数では対応できない部分へ町費助教諭を配置し、対応していく。 			
事業の実施状況及び成果等(Do)	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする児童生徒に対し、授業等における学習指導の支援・校外行事等における安全確保の支援及び校内における生活指導の支援等。 海陽町立小・中学校において支援が必要な児童生徒数は66名であった。（H29年度就学指導委員会判定結果）。うち15名は1対1対応が必要であり、それらの児童生徒のニーズに合わせて、町費助教諭を配置した。 <p>○子ども一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導ができ、基礎基本の定着が図れた。また、ティーム・ティーチング・グループ学習・個別学習など指導方法等の充実を図ることができた。</p>			
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性	<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方針(Action)	対象児童生徒の障害の正確な情報を収集し、就学指導委員会との連携を一層密にし、適正な支援員配置に努める。	
二次(外部)評価	町費助教諭を配置することで、支援を必要とする児童生徒が安全に安心して学校生活を送れている。また、子ども一人ひとりの実態に応じた指導ができている。他にない先進的な取り組みであり、具体的な成果が表れている。二次評価はAである。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		10
事業名	学力向上推進		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	0	所管係	学校教育係	
事業目的	学校と家庭が連携し、基本的な生活習慣や学習習慣の育成を図り、確かな学力の向上と定着を目指すための町費助教諭の配置・学習環境の整備			
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の目標の明示や振り返りを行い、また、基礎的・基本的な知識・技能が身につくように分かりやすい授業の展開。 ○家庭学習への積極的・主体的な取り組みの促進。 ○教員の指導力の向上を図る。 ○少人数指導等指導形態の工夫を図る。 			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習や個別指導等の指導形態の工夫、授業構想シートの有効活用など分かりやすい授業を心がけることができた。 ・年5回の定期テスト前に家庭学習時間調査を実施した。また生徒には「学力シート」を用いて学習意欲の向上を図ることができた。 ・各教科や道徳・学活等を通して、「対話的な学び」の場を設定し、相手の意見を聞き、自分の考えを相手に伝える指導ができた。 			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> ○学力の二極化傾向は改善されておらず、真剣に学習に取り組む生徒とそうでない生徒の差が大きい。「授業が分かりやすい」生徒は増加しているため、勉強の苦手な生徒には適切な課題を与えつつ、よりきめ細かな指導を展開していく。 ○各教科や朝自習等で学力向上確認プリントを使用して「活用力」を高めていく。 ○発表の場面において、プレゼンテーションソフトの活用やホワイトボードの使用、レポートにまとめるなど、様々な工夫をす
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	町費助教諭の配置により、わかりやすい授業のための指導方法や指導形態等の工夫が図られている。教師の指導力向上のためにはさらに研修の機会を増やして欲しい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	11
事業名	幼児教育の充実		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	29,382	所管係	学校教育係	
事業目的	園児及び保護者に対して質の高い教育を提供できるように職員研修の充実を図り、また、育ちの連続性をふまえて保育所、幼稚園、小学校、中学校との連携の強化を図る。			
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を迎え、職員対象に研修をする。 ・教育カリキュラムの接続のため、保育所、幼稚園、小学校、中学校の職員で合同研修を行う。 ・育ちの連続性をふまえた教育を意識して教育活動を行う。 			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を迎え、職員対象に研修を行った。 7/14「人権感覚の基盤となる時損感情を高めるために」 四国大学講師、徳島県保育・幼児教育アドバイザー 兼間和美先生 《成果》講師先生の実体験からの話で、指導者側が子どもの思いや保護者の思いを受入ながら関わることで、変容が見られたと聞き、しっかりと関わることを続けたいと思った。また、子ども達の姿も一年を通して記録をとり、良いところを認め、自尊感情を高めた。 10/25「人権尊重社会の実現を図るため、差別の現実から深く学び、すべての子どもの自立と自己実現をめざす保育・教育を確立しよう～ありのままを受け止め自尊感情を高める幼児教育をめざして～」 《成果》県内からたくさんの先生方に来ていただき、実りのある1日を過ごすと同時に指摘を受けた点は改善していこうと話し合った。 ・年間を通して、海南保育所、海南小学校と行事で交流を行った。 ・育ちの連続性ふまえた教育課程を作成した。 			
一次（内部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
		B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
	○	C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針 (Action)	今後も職員対象に研修会を実施し、また、保育所（園）、幼稚園、小学校、中学校と連携を強化するため、合同研修を目指す。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外部）評価	教職員の研修の機会がたくさんあり、研修の充実が図られている。育ちの連続性をふまえた教育内容の充実や保・幼・小・中の連携をこれからも図って欲しい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	12
事業名	通学補助金交付		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	1,037	所管係	学校教育係	
事業目的	遠距離通学費に要する経費の一部又は全部を補助し、保護者の経済的負担の軽減と対象児童の通学の安全を図る。			
事業内容 (Plan)	<p>「海陽町遠距離児童、生徒通学費補助金交付要綱」の規定により補助を行う。</p> <p>(1) 小学校4km以上の遠距離通学の児童に交通機関の運賃に対して助成金を支払う。</p> <p>(2) 中学校6km以上の遠距離通学の生徒に交通機関の運賃に対して助成金を支払う。</p> <p>(3) 上記遠距離通学者で、自転車通学が認められる児童生徒には自転車購入に対して助成金を支払う。</p> <p>(4) 次の(1)～(3)の全てに該当する者に助成金を支払う。</p> <p>① 海陽町教育委員会が指定校変更を認めた者</p> <p>② 校区をまたいで遠距離者（距離数は従来どおりで交通機関を利用）</p> <p>③ 海陽町教育委員会が助成が適当であると判断した場合</p>			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>【平成30年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海南小学校 自転車購入助成（4km～） 0円 《H29年度 0円》 ヘルメット購入助成（2～4km） 0円 《H29年度 0円》 ・宍喰小学校 バス代助成（回数券・定期券購入） 5名 81,800円 《H29年度 2名 11,700円》 夏休み鼓笛練習時町営バス助成 6名 1,250円 ・海陽中学校 バス代助成（定期券購入）川上地区 8名 916,560円 《H29年度 6名 752,400円》 自転車購入助成（6km～） 0円 《H29年度 3名 150,000円》 JR代助成（定期券購入）（6km～） 1名 36,520円 《H29年度 0円》 			
一次（内部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針 (Action)	今後も事業目的を継続し、保護者の経済的支援に努める。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外部）評価	遠距離通学者の通学に要する費用の助成により、保護者の経済的負担が軽くなっている。引き続き通学補助を進めて欲しい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	13
事業名	町内園・校長会の開催		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	0	所管係	学校教育係	
事業目的	教育委員会と学校現場が互いに共通認識・共通理解を図り、より良い学校教育を推進するとともに海陽町の教育の充実を図る。			
事業内容 (Plan)	<p>町内の園・小中学校及び海部高校の校長が毎月（8月除く）、その時々のも多種多様なテーマのもと、情報交換を行い、共通理解を図っている。</p> <p>特に本町の特色として、幼稚園から高校まで、縦の繋がりを重視し、一貫した教育について、伝達事項・確認事項をはじめ、教育課題の解決に向けた話し合いを進めている。</p> <p>また、緊急を要する場合は、臨時の園・校長会を開催し、速やかな対応を行っている。</p>			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年4月12日（7協議ほか） ・平成30年5月21日（10協議ほか） ・平成30年6月12日（8協議ほか） ・平成30年7月11日（13協議ほか） ・平成30年7月18日（5協議ほか）臨時会 ・平成30年9月27日（11協議ほか） ・平成30年10月22日（6協議ほか） ・平成30年11月13日（6協議ほか） ・平成30年12月18日（7協議ほか） ・平成31年1月25日（7協議ほか） ・平成31年2月12日（8協議ほか） ・平成31年3月19日（9協議ほか） <p>※幼小中高の連携が深められ、海陽町の教育目標の具現化とその実践に向け取り組めた。</p>			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	引き続き、毎月定例園・校長会を実施し、より良い学校教育の推進と海陽町の教育の充実に努める。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	幼稚園・小学校・中学校・高校の校長が集まり、園・校長会を開催しているところは、他の郡市にはないと思う。先進的な取り組みであるとともに一貫した教育が実践できており、二次評価はAである。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	14
事業名	学校図書館の充実		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	1,183	所管係	学校教育係	
事業目的	各学校の図書充足率向上を目指すとともに、児童・生徒の本に親しむ機会をつくり、学力の向上、調べ学習や読書活動の充実を図る。			
事業内容 (Plan)	小中学校図書館の図書購入。			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>子どもの豊かな読書経験の機会を充実させていくためには、子どもの知的活動を増進し、多様な興味・関心に応える魅力的な図書を整備・充実させていくことが必要であり、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等において多様な教育活動を展開していくためにも、図書の充実を図る。</p> <p>平成30年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海南小学校 182冊 299,380円 ・海部小学校 86冊 153,980円 ・穴喰小学校 104冊 299,800円 ・海陽中学校 77冊 243,480円 ・穴喰中学校 88冊 186,400円 			
一次（内 部）評価 (Check)	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている			
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
		D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。		
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も、児童・生徒の本に親しむ機会をつくり、学力の向上や調べ学習や読書活動の充実を図る。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	図書購入費用も十分で、各学校とも図書の充実が図られている。そのうえにまつ風号の運行もあり、子どもたちの読書環境は充実している。二次評価はAである。			

平成31年度(平成30年度決算)事務事業評価シート

		評価番号 15	
事業名	中学校部活動運営(合同体制)の充実		教育振興計画の体系 基本方針2
事業費(千円)	939	所管係	学校教育係
事業目的	海陽中・宍喰中の部活動を維持し、町内中学生の部活動選択肢を総合的に広げ、有意義な中学校生活に繋げることを目的とする。		
事業内容(Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・部活バスを活用して、部活動現状維持体制を維持する。 ①合同チームの練習の送迎(週3回程度)に活用する。 ②土、日、祝祭日において、他校への練習試合等に活用する。 ③海陽中から宍喰までの送りバスを運行する。(今後部活動の希望者選択制に応じて) ・部活動指導者研修会(年2回)を開催し、指導力向上を図る。 		
事業の実施状況及び成果等(Do)	<p>○部活動バスについて 年間利用回数は、125回(平成29年度69回)で大幅に利用が増加した。それにより、単独チームの練習試合等でチームの強化・充実が図られた。特に、宍喰中バレーボール部においては、県ベスト4の躍進に繋がった。 部活動バスの利用やサッカー・体操の練習送迎をすることにより、4名が指定校変更や区域外就学をすることなく、平成31年度宍喰中に入学した。また、サッカーでは、海陽中と宍喰中との合同チームが平成31年度からできた。</p> <p>○送りバスについて 年間部活動送りバス利用は112日であった。</p> <p>※送りバスとは、宍喰中から海陽中へ指定校変更をした生徒が、部活動終了後に帰宅するときに活用するバスのこと</p>		
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価		
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている	
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている	
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。	
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。		
今後の取り組みの方向性	<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方針(Action)	<ul style="list-style-type: none"> ・町内2校中学校の部活動を維持し、町内中学生の部活動選択を広げ、有意義な中学生生活に繋げるように努める。 ・部活動の活性化・施設の有効利用・活動の工夫・指導者の向上に繋ぎ指定校変更や区域外就学者の防止に努める。
二次(外部)評価	部活動バスの活用により、海陽中・宍喰中の部活動数が維持できており、子どもたちの選択肢が広がっている。そのことで、宍喰小学校の卒業生が、指定校変更や区域外就学をすることなく、全員宍喰中学校に入学した。他郡市にないであろう先進的な取り組みである。二次評価はAである。		

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号 16	
事業名	地元高校魅力化推進補助		教育振興計画の体系 基本方針2
事業費(千円)	7,497	所管係	学校教育係
事業目的	人口減少が急速に進む地域の高校において、地域の新たな活力を創出するため、特色ある教育や学校の活性化を図り、生徒や保護者の関心を惹きつけるとともに、魅力ある教育により子どもへの支援を通して、生徒の維持、高校存続に努める。		
事業内容(Plan)	(1) 学力向上に関する助成補助 基礎学力や実力養成のための通信衛星講座・スマホ学習等 (2) 文化教養を高める助成補助 海外短期留学・英検・英語小中高交流体験・京都賞など (3) スポーツの振興に関する助成補助金 バスケットボール・野球・他の部活動の遠征・強化補助 (4) 入学に関する補助金 人材育成PR動画の作成・高校地域説明会等		
事業の実施状況及び成果等(Do)	(1) 学力向上に関する助成補助 大手予備校の通信映像の駿台サテネットのシステムの利用や、自宅でのスマホ学習は、受講者に刺激を与え、基礎基本の大切さや予習・復習の継続性の必要性を実感させ、個々の生徒の学習意欲の喚起・学力向上に大きく寄与した。 進路実績では国公立大学に5名が合格し、関西の有名私立大学にも数名の生徒が合格。 (2) 文化教養を高める助成補助 7/31(火)～8/13(月)14日間 留学先(オーストラリア)6名 1・2年生 (3) スポーツの振興に関する助成補助金 バスケットボール部 優勝 全国高等学校総合体育大会(平成30年6月5日)12年ぶり頂点、 優勝 全国高校選手権(平成30年11月3日)10年ぶり頂点 (4) 入学に関する補助金 海部高校PR動画の作成・高校体験入学等補助・入学説明会等		
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価		
	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
	○ C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性	○	拡充	平成31年度は、地方創生推進交付金を活用し、県内外の大学による高大連携や、講演会さらには、商工会によるサポートのもと、ビジネス科の生徒を対象に起業体験プログラムの実施を通して、特色や、魅力ある教育につなげ、子どもへの支援に取り組んでいく。
		継続	
		縮小	
		見直し	
		休廃止	
二次(外部)評価	学力向上や男子バスケットボール部をはじめとする部活動の活性化が図られた。入学者数も前年度に比べて増加した。郡内外から生徒が海部高校への入学を目指すような魅力ある学校づくりをさらに進めるため、支援の充実を図って欲しい。		

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		17
事業名	スクールバス運営		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	20,472	所管係	学校教育係	
事業目的	遠距離通学児童の利便性および安心・安全な通学を推進する。			
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・園児・児童の登下校及び校外活動に運行する。 ・「海陽町スクールバス運営委員会」を開催し、スクールバスの運営を円滑に行う。 			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・海南小学校（浅川線・相川線・小川線）・海部小学校・栄喰小学校の5台を運行。 平成30年度事故の件数は無し。 ・海南小学校（小川線）のスクールバスが老朽化のため、車両を購入 へき地児童生徒援助費等補助金（スクールバス購入事業） 1,790,000円 （日産NV350キャラバン14人乗り 3,955,000円 ⇒12/3運行開始） ・「海陽町スクールバス運営委員会」を開催（3/20） 翌年度におけるスクールバスの運行経路・乗車園児児童の確認 			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も安心安全なスクールバスの運営に努めていく。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	スクールバスの安全な運行や充実した体制により、子どもたちの安心で安全な通学が保証されている。今後も安全な運行を続けて欲しい。二次評価はAである。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	18
事業名	学校施設整備		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	92,048	所管係	学校教育係	
事業目的	児童生徒の通う学校施設の維持管理及び運営を適正に行い、安全・安心な教育環境を将来に渡って提供する。			
事業内容 (Plan)	1. 水道光熱費や学校配当予算等、学校運営・教育活動の諸経費負担。 2. 賃借等による教育用事務機器等の配備。 3. 各種附属設備の管理委託及び校舎補修・校庭整備。 4. 遊具の点検委託及び補修。 5. 児童及び職員用机・椅子、その他の学校備品の購入。 6. 老朽化に伴う改修工事の実施。			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	○宍喰小体育館屋根等改修工事 ・事業費 50,623千円（委託費含む） ○海部地区スクールバス等車庫新築工事 ・事業費 34,708千円（委託料含む） ○海陽中体育館バスケットゴール改修工事 ・事業費 6,717千円（委託料含む）			
一次（内部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性	<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方針 (Action)	老朽化した学校施設・設備の計画的な更新が必要。児童数の増減を適切に把握し、長期的視野に立った更新について検討していく。	
二次（外部）評価	学校施設の維持管理及び運営が適正にできている。今後も計画的に学校施設の維持管理に努めていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	19
事業名	エアコン整備		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	6,558	所管係	学校教育係	
事業目的	子どもたちの快適な教育環境を整えるために、全小中学校の普通教室等にエアコンを整備することとし、次年度へ向け基本設計・実施設計を行う。			
事業内容 (Plan)	<p>※設計結果の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調方式で1教室に室内機、室外機とも1台ずつ。大きい部屋には、2台ずつ設置。 ・空調機は天吊り型業務エアコン。室外機は直近の屋外に設置。教室内外の連絡管は既存サッシをアルミパネルに取り替えて取り付ける。 ・各教室の空調機は職員室で集中制御管理が可能で、デマンド監視装置によりデマンド制御が可能なシステムを採用。 ・受変電設備は可能な限り既存設備を改修し、機器の取替及び増設等に対応。（突小は、H29年度に更新済み、海部小は現況の低圧受電のままで対応） 			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>○6月定例議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文教厚生常任委員会で小学校（31年度）、中学校（32年度）の2年間をかけて、夏休み期間を利用して工事を実施する方向で検討する。それまでの間は扇風機で対応としていた。（6月補正で扇風機29台分435千円を計上）。 <p>○9月定例議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校にエアコンを同時に整備する方向で648万円の設計委託料を計上。 ・11月9日契約、工期（11月10日～2月28日） <p>○12月定例議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国交付金の内示があり、工事費1億5千9百万円、監理費460万円、計1億6千360万円を計上。 <p>○3月定例議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交付決定（2月）、設計委託の工期変更（3月25日までとする）延伸理由は、学校との日程調整の遅れ、対象教室の熱付加計算の遅れ、既設エアコンの使用可能検討、受変電設備の改修検討及び設計図書作成に期間を要した。 <p>※工事費、監理費とも次年度へ繰り越す。</p>			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	引き続き、繰越予算をきっちり事業化し、31年度夏休み期間中の完成をめざす。 ・5月 入札、契約（工期は9月中旬まで） ・6月 各学校及びPTA、保護者説明会の実施 ・7月 エアコン運用ガイドラインの作成、周知 ・8月 末には、学校内工事完了 ・9月 月上旬より順次試運転開始
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	本年度の9月に運用できるよう整備を進めていただきたい。また、適正なエアコンの運用のために運用ガイドラインを整備していただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	20
事業名	学校給食の充実 (給食センター運営・海南給食センター解体)		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	101,351	所管係	学校教育係	
事業目的	(運営) 給食施設・設備の適切な管理運営を行い、安全安心な学校給食を提供する。 (解体) 役割を終えた海南学校給食センターを速やかに解体し駐車場化する。			
事業内容 (Plan)	(運営) 新設海陽学校給食センターが平成30年8月から稼働、9月から給食提供を開始する。 尖喰学校給食センターの老朽化した備品の買換え。 安心安全で地産地消を取り入れた魅力のある給食を提供する。 (解体) 海陽学校給食センター新設に伴い、昭和48年3月に建設した海南学校給食センターを解体し、跡地利用として駐車場化する。			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	(運営) 海南・海部給食センター廃止 (7/31) 海陽学校給食センターの稼働・給食提供に向けて準備 ・食材納入業者との打合せ ・給食車の改修 ・保護者に向けて「給食試食会」を実施 (8/16 海南文化館 大会議室 62名) ・450食の練習調理 (幼稚園・海南小・海部小・海陽中) 登校日試食 尖喰学校給食センターの備品購入 ・食器食缶洗浄機 (老朽化により買換え) 4,460,400円 海陽・尖喰学校給食センターのアレルギー対応の範囲を拡大 (9/1より) (解体) 当初予算で、解体工事設計委託270万円、解体に伴う近隣家屋事前調査委託240万円を計上。 9月補正で、解体工事費2650万円、解体に伴う外構工事費360万円を計上。 11月より工事に取りかかり、3月末で予定どおり完了した。 解体跡地は、アスファルト舗装で区画線引き、フェンスを設置し駐車場として整備した。			
一次 (内 部) 評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	(運営) 今後とも、引き続き、安全安心で給食の提供に努めるとともに、アレルギー対応の範囲について見直しを検討していく。 (解体) 単年度事業で完了。今後は、適切に維持管理に努める。
	○	継続		
		縮小		
	○	見直し		
	○	休廃止		
二次 (外 部) 評価	アレルギー対応食も含め、安心・安全でおいしい給食の提供ができている。今後も安心・安全で魅力ある給食の提供に努めていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		21
事業名	食育の推進		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	0	所管係	学校教育係	
事業目的	学校を中心に家庭や地域と連携を図りながら、さまざまな学習や体験活動を通して食に関する関心や理解を高め、子どもの健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図る。			
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・「海陽町学校食育推進委員会」を開催する。 ・地場産食材を使用した学校給食の日々の献立を通して、子どもたちの地域の農林水産物や産業への理解を深め、郷土への愛着を深める。 ・食生活アンケートの実施や県食育推進パワーアップ作戦の授業を実施し食育の推進を図る。 			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・「海陽町学校食育推進委員会」 6/6、3/20開催 ・海陽の食材を味わう日（毎月19日）に海陽町産食材を使った学校給食献立を実施。広報として「海陽の食材便り」を発行。 ・卒業生に「子どもあゆみ事業（卒業生地産地消費食材費補助）」よりバイキング給食に地場産物の「阿波尾鶏の唐揚げ」と郷土料理の出世芋を提供。 ・食生活アンケートの実施（6月） ・徳島県学校食育推進パワーアップ作戦で町内の該当学年で同じ学習内容を教諭と学校栄養職員・栄養教諭によるTT授業で実施。（小学2・3・4年、中学1・2年） <p>子どもたちの食生活に関する正しい理解と望ましい習慣の醸成のため、上記事業を行い食育の推進に努めた。</p>			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も引き続き事業内容を継続し、食育推進に努める。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	食育に関する様々な取り組みにより、子どもたちの食への関心や理解が深められ、健全な食生活につながっている。今後も食育推進に委員会を中心に各種事業により、食育の推進に努めていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	22
事業名	防災教育の推進		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	0	所管係	学校教育係	
事業目的	学校における防災教育の充実を図り、災害が発生した場合に、自らの身を自らで守れるよう児童生徒の防災力を育む。			
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ○地震、災害等の災害を防止軽減するための時間帯に応じた具体的な対処行動を避難訓練を通して、児童生徒によく理解させ、しっかり身につけさせる。 ○毎年学校防災管理マニュアルの見直しを図るとともに、年間計画に、防災計画、避難訓練を位置づける。 			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波発生時の対応訓練の実施。 ・火災発生時の対応訓練の実施。（水平避難・垂直避難） ・水難救助訓練の実施。（人工呼吸・AEDの使い方） ・消火訓練の実施。（消火器の使い方） ・土曜学習として防災学習の実施。（町内小学校5年生） ・町防災避難訓練への参加。（12月） ・土曜学習の一環で防災学習の実施（町内3小学校5年生）72名の参加 ○訓練等を重ねることで、防災意識や防災活動の意識が高まってきた。 			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	防災意識の高揚を図り、地域の防災訓練への参加や防災講座を通じ、防災力の重要性を身につけさせるよう継続的な活動を目指す。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	防災マニュアルの見直しや防災訓練の実施により、教職員や子どもたちの防災意識も高まっている。今後は家庭や地域、関係機関と連携しながら地域全体で命を守る体制づくりの推進に努めていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号 23	
事業名	町奨学金貸与・奨学金返還助成制度		教育振興計画の体系 基本方針2
事業費(千円)	18,180	所管係	学校教育係
事業目的	1. 経済的理由により修学が困難な者に対して奨学金を貸与する。 2. 返還助成制度により、本町へのUターン及び定住、地元就職の促進を図る。		
事業内容(Plan)	1. 町奨学金貸与について ・海陽町奨学金貸与条例に基づき、毎年4月初旬までに申請、4月下旬審査会、5月上旬決定通知、5月中旬誓約書等の提出後、5月末までに1回目の貸与、以後計4回に分けて貸与。 2. 奨学金返還助成制度について ・Uターン就職者の奨学金返還を支援する制度で、4年生大学卒業者の場合、年間最大24万円を最長10年間助成する。対象奨学金は町奨学金、日本学生支援機構奨学金、県社会福祉協議会教育支援資金の3種類。特色としては、海部高校卒業生も対象としている。		
事業の実施状況及び成果等(Do)	1. 町奨学金貸与について ・貸与決定者14名 内訳（高校等1名3年間、大学等3名2年間、3名3年間、7名4年間） ・30年5月臨時議会専決にて、条例の一部改正として、大学等の貸与人員を12人以内から13人以内へ改正 ・31年2月臨時議会にて、条例の一部改正として、卒業後の返還開始を1年経過後から3年経過後へ改正 2. 奨学金返還助成制度について ○新規目玉事業として制度創設 ・10月定例教育委員会、教育総合会議で制度設計に向け方向性、スケジュールの検討 その後、定例教育委員会等で協議を重ねる ・2月議会全員協議会（臨時議会）で制度概要を説明 ・2月海部高校及び社会福祉協議会へ制度概要説明 ・3月町広報紙、マスメディア等にて町民へ周知		
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価		
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている	
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている	
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。	
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。		
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針(Action) ・4月、5月広報紙等で周知徹底を図る。 ・5月 1ヶ月間で申請を受け付ける。 ・6月末 決定通知、3月実績報告、4月助成の流れでスムーズに対応していく。 また、引き続き、制度の周知徹底を図りながら定住・定着に向け取り組む。
	○	継続	
		縮小	
		見直し	
		休廃止	
二次(外部)評価	奨学金返還助成の新しい制度ができたので、制度の広報をしっかりとし、本町へのUターン及び定住、地元就職の促進が図れるような運営に努めていただきたい。		

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号 24		
事業名	子どもあゆみ活用		教育振興 計画の体 系 基本方針2	
事業費 (千円)	16,879	所管係	学校教育係	
事業目的	少子化対策の施策として、安心して子どもを生み育てることができ、次代を担う子どもが健やかに成長できる環境を整備し、子どもの未来に夢や希望を持てる町の実現に資することを目的とする。			
事業内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校学校給食費補助（地産地消分・小6中3地産地消分・給食費） ・第3子以降給食費補助 ・新小中1年生体操服購入費助成 ・第3子以降中学卒業祝金 ・防災教育 ・小学生を対象とした英語教育 ・幼稚園第3子保育料（預かり保育料含む）無償化 			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>【平成30年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食費補助・・・ <ul style="list-style-type: none"> 小学校 延べ3,434人 3,120,983円 中学校 延べ2,146人 2,139,009円 区域外特別支援就学者 延べ33人 4,573,192円 合計 延べ5,613人 5,759,192円 ・第3子以降給食費補助・・・114人 4,721,402円 ・新小中1年生体操服購入費助成・・・108人 536,143円 ・第3子以降中学卒業祝金・・・16人 800,000円 ・防災教育・・・救給カレー購入 242,800円 ・小学生を対象とした英語教育・・・臨時職員人件費 4,574,813円 ・幼稚園第3子保育料（預かり保育料含む）無償化・・・6人 244,000円 			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も子どもを持つ保護者、多子世帯の保護者に対し、経済的支援を行い少子化対策の施策として継続していく。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	子どもあゆみ基金の活用により、様々な事業が展開されており、子どもたちが健やかに成長できる環境が整備されている。今後も子どもの未来に夢や希望が持てる町づくりの推進に努めていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	25
事業名	就学援助		教育振興 計画の体 系	基本方針2
事業費 (千円)	4,908	所管係	学校教育係	
事業目的	経済的理由によって就学が困難な児童生徒の保護者に対して、就学援助費を支給することにより、義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。			
事業内容 (Plan)	町内小・中学校に在籍する児童・生徒の保護者が、生活保護を受けているか、世帯全員の収入額が教育委員会の定めた認定基準額を下回る場合対象となる。 認定された保護者に対し、学用品※、新入学学用品費※、校外活動費、修学旅行費、給食費、学校病医療費、（※が付記された援助費目以外は実費）を支給する。 当事業は一部が国の補助金対象事業となっている。			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>【平成30年度実績】 要保護世帯10世帯14人・準要保護43世帯57人（H31.3.31現在）</p> <p>・要保護児童及び準要保護児童 支給合計4,907,824円</p> <p>国庫支出金（要保護児童生徒費補助金）1/2補助 学用品費等 小学校 29,000円・中学校 129,000円 補助金合計 158,000円</p>			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	今後も就学が困難な児童生徒の保護者に対して、就学援助費を支給し、経済的な支援を行う。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	子どもたちが安心して学習ができるように引き続き事業の円滑な実施に努めていただき			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	26
事業名	公民館活動		教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	1,218	所管係	社会教育係	
事業目的	地域の連帯感を醸成し、学校などの関係機関、団体と連携して、地域に根ざした公民館活動を展開する。			
事業内容 (Plan)	地域意識の希薄化・コミュニティの弱体化が進むなか、地域活動の拠点である公民館を中心として、地域の方が交流親睦を深められるような活動を推進していく。年度当初に会議を持ち年間計画を話し合い、その次に球技大会や共楽運動会などの打ち合わせの会、その後反省会などを持ちつつ、年間行事を進めている。また、公民館活動の理解促進、活動周知等を主たる目的とし活動状況の広報をする。			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	各公民館で会議を持ち、各々年間計画に基づいて事業を進めている。会では各分館の状況などに合わせて事業内容を変更したり、次年度に向けて改善の案なども出て活発な意見交換ができています。また2カ月に1度、公民館活動を公民館報でお知らせし活動状況を発信している。結果、地域の人々と顔と顔を合わせて話をする機会が持っており、各分館で各自活発に地域の活動にも取り組んでいる。また分館交流グラウンドゴルフ大会や公民館大会を行うなど公民館活動について住民みんなが学び考え、交流できる活動を開催できている。交流グラウンドゴルフ大会参加者81名（去年度83名）公民館大会テーマ「公民館がひらく日本の未来」参加者225名（去年度約300名）。			
一次（内部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの 方向性		拡充	今後の方針 (Action)	今後も地域交流の場である公民館活動を進めていく。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外部）評価	公民館活動が地域の交流の場となっている。今後もたくさんの方が集う公民館活動になるよう活動内容の工夫にも積極的に取り組んでいただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		27
事業名	社会教育施設の充実（公民館・体育施設も含む）		教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 （千円）	46,888	所管係	社会教育係	
事業目的	海南文化村・公民館・体育施設等の町社会教育施設の維持管理や利用促進に努め、地域住民の自主的な社会教育活動の推進・充実を図る。			
事業内容 （Plan）	町社会教育の拠点施設である海南文化村を中心に、公民館施設や体育施設などの維持管理や利用促進に努め、住民が社会教育活動へ参加しやすい環境づくり等に取り組む。			
事業の実 施状況及 び成果等 （Do）	<p>町内社会教育施設については、地域コミュニティの形成や、地域スポーツ・文化活動の推進や育成という意味で、非常に重要な役割を担っており、多くの団体・チーム等が利用していることから、その必要性和成果が伺える。 引き続き、施設・設備等の維持管理（保守・修繕等）や利用促進に努める。</p> <p>○主な工事費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海南文化館屋根等修繕工事 3, 285千円 ・海南小学校グラウンド照明増設工事 1, 188千円 ・神野町民グラウンドブロック塀改修工事 583千円 ・日比原センターブロック塀等改修工事 1, 080千円 <p>○主な備品購入費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄喰町民センター会議用机・イス等購入 6, 156千円 ・奥浦・神野町民体育館AED購入 496千円 			
一次（内 部）評価 （Check）	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている			
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
	C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。			
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 （Action）	引き続き、社会教育施設の維持管理や利用促進等に努め、地域に根ざした社会教育活動拠点の充実を図る。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	全ての地域住民に、学習や研修、スポーツや趣味に興じたり、楽しむ機会を提供することができるよう今後も施設の維持管理に努めていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	28
事業名	図書館の運営の充実		教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	27,605	所管係	社会教育係	
事業目的	図書の収集、整理、保存、またいつでも利用ができ、身近に感じられる図書館づくり、住民の読書活動を推進する。			
事業内容 (Plan)	誰でも気軽に立ち寄れる、地域住民のふれあいの場を目指して、気軽に本に触れる機会を提供する。いつでもだれでも利用できるよう資料の収集、整理、保存に努め、貸出サービスを行う。また資料や情報を求めている人と適切な情報源を図書館員が手助けをして結びつけるなど、サービスの向上に努める。また住民の読書活動や図書館利用促進のため活動の場を図書館以外にも広げていく。図書館の読み聞かせボランティアとも連携しイベント活動を開催する。			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>活字離れ、読書離れが進行している昨今、貸出状況は前年度から5,544冊減少しているものの、図書館は普及活動を精力的に行っている。阿波海南文化村祭りに合わせ、移動図書館を出し貸出を行ったり、簡単な工作教室を行っている。またファミリーサポートセンターとも連携し、海南庁舎でおはなし会を2回、突喰産業祭に合わせておはなし会をと図書館以外のイベントに合わせて他団体とも連携し、図書館通いしていない人にも図書館を利用してもらえる機会が作れている。図書館の読み聞かせボランティアとも連携し、イベントに取り組みしており、図書館の普及活動が行えている。</p> <p>○貸出状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数 102,234冊 (29年度 107,778冊) ・貸出人数 20,633名 (29年度 21,457名) 			
一次(内部)評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針 (Action)	今後も引き続き、図書館利用促進に向けての活動を展開していく。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次(外部)評価	貸出冊数や貸し出し人数が前年に比べて減少している。利用者増加に向けて、住民のニーズに合った本の整備や活動の工夫に一層努めていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号 29	
事業名	文化館の運営の充実		教育振興計画の体系 基本方針 3・1・2
事業費 (千円)	32,262	所管係	社会教育係
事業目的	町民の生涯学習の拠点として、ホール、会議室等を有効に活用し、教育文化活動及び芸術の向上発展に努めると共に、各種イベントを開催し魅力ある地域づくりの推進を図る。		
事業内容 (Plan)	町民の芸術文化活動の発表の場として、映画会、文化村祭り文化協会祭、文化祭、公民館大会などを開催し、文化館の利用促進を図っている。藍染や木工等の体験活動を定期的に行うことにより、生涯学習の推進を図っている		
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>年に4～5回の映画会、文化村祭り、文化協会祭、公民館大会等を開催する事により、生涯学習活動の場として文化館の有効活用が図れていることは、地域の貢献度から言うところある程度の成果を収めていると思われる。藍染や木工体験においても、よくばり体験の修学旅行生受入や子ども会の体験活動等で利用促進を図っているので一定の成果が伺える。しかし、町全体が高齢化の傾向にあるので、利用の伸び悩みがあるのも現状である。</p> <p>○文化館利用者 14,794名 (29年度 15,010名) △216名</p> <p>○文化館使用料 2,556,840円 (29年度 2,486,160円) 増70,680円</p>		
一次 (内部) 評価 (Check)	事業の達成度評価		
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている	
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている	
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。	
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。		
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針 (Action)
	○	継続	
		縮小	
		見直し	
		休廃止	
二次 (外部) 評価	今後も生涯学習活動の場として文化館の有効活用が図れるよう、なお一層、各種イベント等の創意工夫を図って欲しい。		

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	30								
事業名	文化館自主事業		教育振興 計画の体 系	基本方針3								
事業費 (千円)	788	所管係	社会教育係									
事業目的	優れた芸術・文化鑑賞の場を提供することで、町民の自主的な文化・芸術活動の推進を図る。											
事業内容 (Plan)	学校・地域・関係機関と密接な連携を図り、映画上映会や、児童演劇巡回公演の開催など、優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供する。また、文化館の有効活用も図っていく。											
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>文化村祭での映画上映会を始め、ミュージカル「白雪姫」の公演、町内小学生を対象とした人形劇公演や、影絵ワークショップなどを開催。優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供できたことで、児童や地域住民の芸術文化への高い関心や、情緒豊かな感性を育むとともに、文化館ホールの有効活用も図ることができた。</p> <p>自主事業参加人数</p> <table border="0"> <tr> <td>映画上映会（年3回開催）</td> <td>561名</td> </tr> <tr> <td>ミュージカル「白雪姫」</td> <td>368名</td> </tr> <tr> <td>児童演劇公演（人形劇）</td> <td>358名</td> </tr> <tr> <td>影絵ワークショップ</td> <td>93名</td> </tr> </table>				映画上映会（年3回開催）	561名	ミュージカル「白雪姫」	368名	児童演劇公演（人形劇）	358名	影絵ワークショップ	93名
映画上映会（年3回開催）	561名											
ミュージカル「白雪姫」	368名											
児童演劇公演（人形劇）	358名											
影絵ワークショップ	93名											
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価											
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている										
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている										
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。										
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。											
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	引き続き、優れた芸術・文化鑑賞の場を提供していくことで、地域に根ざした芸術文化活動の推進を図っていく。								
	○	継続										
		縮小										
		見直し										
		休廃止										
二次（外 部）評価	各種の自主事業により、子どもから大人までが、優れた芸術や文化を鑑賞する機会となっている。引き続き、豊かな芸術・文化に触れる機会をつくっていただきたい。											

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		31
事業名	文化協会		教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	827	所管係	社会教育係	
事業目的	本会は、海陽町に所在する芸術文化団体相互の連絡を密にし、芸術文化の高揚に努めるとともに、町民文化の融和と交流を図り、豊かな郷土文化の創造と発展に寄与する。			
事業内容 (Plan)	<p>※文化協会祭（春）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示（約300点）、芸能発表（90名） <p>※文化祭（秋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海南会場・作品展示（約400点）、芸能大会（110名） ・海部会場・作品展示（約250点） ・宍喰会場・作品展示（約300点）、芸能大会（60名） <p>※視察研修（33名）</p> <p>京都・宇治平等院等の文化施設を訪れ会員各自の裾野を広げ知識の向上に繋げている。</p> <p>※年間を通じて、三幸館ギャラリーを各団体が1ヶ月から2ヶ月のローテーションで会員の作品を展示、紹介している。</p>			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>○登録（44団体）会員（約500名・個人含む）。</p> <p>○文化協会祭は、作品や芸能発表の停滞化、高齢化が加速し、作品鑑賞の来場者数や芸能発表の観客数が頭打ちとなり、何らかの方向転換が必要な状態にある。ゴールデンウィーク期間中は、子どもも楽しむことができる別メニューとして、文化村祭を同時開催している。</p> <p>そこで、文化協会祭のお茶席等に相乗効果が現れ家族連れで来場している。作品展示に関しては、会場が海南地区に設定されていることもあり、海南地区と海部地区の会員の作品が中心になっている実態があり、宍喰地区の会員の作品を集める方法に課題がある。</p> <p>また、ホールの舞台での芸能発表の際の問題点として、音響や照明等特殊な設備装置を使用するには、教育委員会職員の協力無しには成り立たない状況である。会員主体の事業が基本であるが、同様に作品展示の作業も教育委員会職員の協力が必要である。</p>			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	<p>会員の高齢化が進み、会員内部から事業縮小の意見が出始めている。</p> <p>一方、新会長就任により、会員の知識向上を目的に研修の機会を新たに計画している。</p> <p>今後、事業の取捨選択について十分話し合い、本会の目指すべき方向性を共有する必要がある。</p> <p>(例) ゴールデンウィークは、文化協会祭に代えて文化村祭に一本化するなどを検討する。</p>
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	文化協会祭や視察研修により、海陽町内の芸術文化団体相互の連携が深まっている。今後も地域の芸術文化の発展に向けて文化協会の効果的な運営に努めていただきたい。また、文化協会祭と文化村祭りの一本化やホールでの職員の機器操作という課題解決に向けて積極的に取り組んでいただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号 32	
事業名	文化村祭		教育振興計画の体系 基本方針3
事業費(千円)	1,959	所管係	社会教育係
事業目的	ゴールデンウィーク中に町文化協会祭とあわせて、町の歴史や文化遺産を活用した各種イベントを開催することで、町内外の参加者に郷土の歴史や文化の啓発を図る。		
事業内容(Plan)	町文化協会・地域ボランティア・町博物館・その他関係機関と密接な連携を図り、町文化協会祭とあわせて、町の歴史や文化遺産を活用した参加・体験型イベント等を中心とした文化村祭りを展開することで、生涯学習の拠点施設である海南文化村の素晴らしさや、町の歴史・文化の継承及び啓発を図っていく。		
事業の実施状況及び成果等(Do)	<p>子どもの日の映画上映を始め、海部刀づくりのワークショップや、海部城をテーマとした参加型イベントなどの各種イベントの他、茶道・藍染め体験や、図書館によるブックスタート、地域ボランティアによる縁日等を開催。ゴールデンウィーク中の開催であり、子供を中心としたイベントを展開することで三世代が参加しやすい環境をつくり、より多くの方にご参加をいただいた。</p> <p>また、町文化協会祭とあわせてイベントを展開することで、より効率的に町の歴史や文化を学ぶことができ、今後の郷土文化の継承・啓発という観点からも少なからず成果が伺えた。</p> <p>文化村祭参加人数 映画上映「シング」 267名 リアル救出大作戦等参加型イベント 134名 文化協会作品展示、茶道・藍染め体験他 422名</p>		
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価		
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている	
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている	
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。	
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。		
今後の取り組みの方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止	今後の方針(Action)	引き続き、文化協会祭とあわせて開催することで、地域の歴史や文化を学べるイベントを展開し、郷土文化に誇りを持てる人材の育成・歴史や文化遺産の継承につとめる。
二次(外部)評価	子ども向けの各種イベントを地域の関係機関と連携をしてゴールデンウィーク期間中に実施することで、三世代の参加者が増加している。このことは、生涯学習の拠点施設である海南文化村のアピールにもつながっている。引き続き子どもたちが楽しみながら町の歴史や文化が学べるよう事業に取り組んでいただきたい。		

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	33
事業名	生涯教育の振興と充実		教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	813	所管係	社会教育係	
事業目的	人が生涯にわたり学び・学習の活動を続けていけるよう事業の整備を行い、住民一人ひとりが豊かな人生を送れるよう生涯学習の振興、充実を図る。			
事業内容 (Plan)	住民の文化活動、趣味、レクリエーション活動を支援するため各種多様な教室を行っている。陶芸教室や木工体験、藍染体験、藍染サークル、レクダンスサークル、成人大学と多岐にわたる活動が行えるよう環境整備し、様々な学びの機会の提供を行っている。			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>住民の個性をのびし、ふれあいを求める文化活動を通じ、町内外の方々との交流、世代間交流が行えている。また集団活動を通じ、自主性を養うとともに各教室参加者が各自準備から片付けまで主体性をもって取り組んでいる。文化祭などにも出演したり、作品を出展したりと目標を持ち、取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○陶芸教室（年12回） ○木工体験（年104回） ○藍染体験（年36回） ○藍染サークル（年5回） ○レクダンスサークル（年14回） ○成人大学（年15回） 			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	これからも生涯学習を通じ、人生を豊かにする活動、学習が行えるよう整備に努めたい。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	主に様々な文化活動を通して生涯教育の充実が図られている。今後も生涯にわたり学び続けることができる事業の展開に努めていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号 34	
事業名	新春ふれあい駅伝大会運営		教育振興計画の体系 基本方針3
事業費(千円)	540	所管係	社会体育関係
事業目的	地域スポーツの振興として、駅伝大会を実施することにより、青少年の体力向上や、町内外を問わず普段交流のない年代が駅伝大会を通じて交流することができる。		
事業内容(Plan)	<p>毎年1月の第3日曜日に100チームを上限として駅伝大会を実施。二部制で、一部は小学生男女、中高生女子のチームが走る。二部は中高生男子、一般(成人)、オープンのチームが走る。また、小学生男子・女子、中高生男子・女子、一般の5部門上位3チームと各区間の区間賞を表彰する。</p> <p>参加者目標数 80チーム</p>		
事業の実施状況及び成果等(Do)	<p>申込チーム数は昨年度を上廻る70チームであった。小学生女子以外の部門で海陽町のチームが優勝した。この大会を続けていることが選手の育成、町民の健康増進及びコミュニケーションの場となっている。楽しみながら、走る、たすきをつなぐそんな機会を提供し続けたい。</p> <p>参加者数 70チーム(58チーム) ()は平成29年度</p>		
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価		
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている	
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている	
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。	
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。		
今後の取り組みの方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止	今後の方針(Action)	<p>現在は実行委員会の形をとって運営しているが、実質は行政主導の運営であり、民間を中心とした実行委員会が自主的に運営できるよう変えていく必要がある。</p> <p>参加者数を10%増やす。</p>
二次(外部)評価	昨年度に比べて参加チーム数が増えている。これからもふれあい駅伝大会が町民の健康増進とともにコミュニケーションの場となるよう引き続き取り組んで欲しい。		

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	35
事業名	総合型スポーツクラブ運営補助		教育振興 計画の体 系	基本方針3
事業費 (千円)	3,500	所管係	社会体育関係	
事業目的	地域住民によって組織された自主的な総合型地域スポーツクラブが、より積極的な活動が展開でき、クラブの一層の充実・発展を図るとともに、クラブ活動を通じて生きがいのある生活と活力のある社会づくりを形成することを目的として総合型スポーツクラブの運営に対し、補助金を交付する。			
事業内容 (Plan)	各種スポーツ教室（ボクササイズ、エアロビクス、キッズダンス等）、トレーニングジムの運営、イベント（名所ウォーキング、スポーツレクリエーションフェスタ等）、町からの委託事業（介護予防運動、健康相談・検診後の運動支援等） 開催教室数 15教室			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	各種スポーツ教室（ボクササイズ、エアロビクス、キッズダンス等）、トレーニングジムの運営、イベント（名所ウォーキング、スポーツレクリエーションフェスタ等）、町からの委託事業（介護予防運動、健康相談・検診後の運動支援等） 参加者数 260名（230名） （ ）は平成29年度			
一次（内部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針 (Action)	各年代に応じた様々なスポーツ教室の実施や既存のスポーツ教室の更なる充実。更なるクラブ会員確保のため、広報の充実や魅力的な事業の検討。 参加者数を10%増やす。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外部）評価	総合型地域スポーツクラブが主催する各種スポーツ教室や町からの委託事業への参加者数も増加し、健康増進と生きがいづくりに役立っている。今後も参加者増加を目標に各年代に応じた様々なスポーツ教室の実施に取り組んでいただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	36
事業名	体育協会助成		教育振興 計画の体 系	基本方針3・ 1
事業費 (千円)	1,470	所管係	社会体育関係	
事業目的	スポーツ振興のため、海陽町体育協会に対し補助金を交付することにより、各種スポーツ大会の開催及びスポーツ少年団の活動支援を行うなど、町民が生涯にわたりスポーツを行える環境づくりを行うことにより、町民の健康づくりの推進を図る。			
事業内容 (Plan)	体育協会杯の開催（野球、バレー、フットサル、バドミントン、グラウンドゴルフ等）スポーツ少年団への活動費助成（野球、バレー、ミニバスケットボール、卓球等） 開催行事数 20回			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	各クラブが様々な活動を行っていることにより、住民の健康増進に役立てる機会を提供することができた。社会体育の振興につながっている。 参加者数 4,200名（4,130名） ()は平成29年度			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性	<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	大会運営等を各クラブで自主運営ができるように進めていく。各行事等の参加者を最低でも維持、又は増加するように努める。 参加者数を10%増やす。	
二次（外 部）評価	海陽町体育協会主催のスポーツ大会やスポーツ少年団の活動支援により子どもから高齢者まで誰もがスポーツに親しめる環境づくりができています。今後も町民の生涯スポーツの環境づくりに努めていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	37
事業名	人権教育の推進		教育振興 計画の体 系	基本方針4
事業費 (千円)	2,429	所管係	社会教育係	
事業目的	学校・家庭・社会・関係機関等が時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進することを通して、人権尊重の精神の寛容を図り、人権が共存する社会を築くことをめざす。			
事業内容 (Plan)	学校・家庭・地域・関係機関等と密接な連携を図り、同和問題をはじめ日々の生活の中にある人権問題の解決を目指すとともに、真に人権の確立した社会の構築に務める。すなわち、地域住民が交流を図ることを通じて相互に理解を深め、地域が一体となったコミュニティづくりを進めて行きたいと思っております。そのための研修と住民の啓発を怠らず進めて行く。			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>○町人権教育協議会 人権研修会（講演会 会員約50名）</p> <p>○人権啓発映画上映会（2回上映 388名参加）</p> <p>○人権コンサート（114名参加）</p> <p>○分館巡回人権学習会 ・テーマ「自然災害と人権」（31会場：延べ347名参加）</p> <p>各種イベントの参加人数については、その年の学習テーマ、内容等により、多少の増減はあるが、人権教育の推進、啓発については、学習機会をつくるのが最も大切であり、個々の学習成果を図ることはできないが、アンケート結果等から、少なからずその成果が表れている。</p>			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	引き続き、人権啓発イベントや分館巡回人権学習会等を実施していくことで、地域に根ざした人権教育の推進を図っていく。	
二次（外 部）評価	町内31会場で実施している分館巡回人権学習会や人権啓発映画の上映などにより人権教育の推進・啓発が推進されている。今後も社会教育を通じて、人権尊重の意識を高める教育の推進に積極的に取り組んでいただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	38
事業名	いじめ・不登校防止		教育振興 計画の体 系	基本方針4
事業費 (千円)	0	所管係	学校教育係	
事業目的	多様化するいじめ・不登校問題についての予防対策を行う。また、発生した場合には解決のための取組を実施する。			
事業内容 (Plan)	<p>(1) スクールカウンセラー(SC) 事業 (2) スクールソーシャルワーカー (SSW) 事業 (3) その他 相談員事業</p> <p>県事業であるSC・SSW事業の申込を行う。緊急で対応が必要な場合については相談員事業(特別支援教育事業を含む)で対応を行っていく。</p>			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>(1) SC 海陽中学校区1名 宍喰中学校区1名の配置 (2) SSW 海陽町小・中学校1名の配置 (3) 町雇用のSCが対応(2ヶ月に1回)</p> <p>多様化・複雑化した問題に対応するため、平成30年度は新たにSSW事業を申請し、児童生徒の心の問題だけでなく、家庭環境にも関わることのできる体制作りを行った。状況によっては町雇用のSCに相談を依頼することもあり、児童生徒・保護者ニーズに応えることができた。 ただし、SSW事業については周知が不十分な面があり、来年度は保護者へ広報する機会を作っていきたい。また、いじめ等、緊急の対応が必要な場合は県事業・町事業だけでは間に合わず、さらなる体制の整備が必要と思われる。</p>			
一次(内部)評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針 (Action)	児童生徒の心の安定を図るため、臨床心理士(スクールカウンセラー)の相談回数を増やしていく。 (2ヶ月1回→1ヶ月1回) また、希望によってはその他(箱庭療法等)の相談事業も利用できるようにしていく。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次(外部)評価	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用により、相談体制の充実が図られている。今後も相談体制の充実はもちろん、人権教育や道徳教育を充実させ、豊かな心が育めるよう取り組んでいただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		39	
事業名	博物館の運営の充実			教育振興 計画の体 系	基本方針 5・1・ 2・3
事業費 (千円)	9,207	所管係		社会教育係	
事業目的	様々な企画展や各種講座（講演・セミナー・展示解説等）を開催して、地域固有の歴史・文化遺産を広く紹介し、町内外に海部地域の歴史・文化の情報を発信する。博物館が地域住民にとって地域の歴史・文化への認識を深め、地域に対する誇りや愛着が持てる場となるよう、地域住民の様々なニーズに応じた魅力的な博物館活動に取り組む。				
事業内容 (Plan)	<p>年2回の企画展（長国の埋蔵文化財、阿波の幕末刀）を開催し、展示及びそれに関連した講演・解説を行うことによって、町内外の人に地域の歴史・文化に対する理解を深めてもらうよう地域の豊かな文化財等を広く紹介する。</p> <p>さらに、「海部自然・文化セミナー」（県立博物館との共催、4回）や古文書講座（3回）等、様々な講座活動を展開して、地域住民の歴史・文化を学ぶ場を提供する。</p> <p>小学校・中学校と連携し、博物館での実物学習を「総合的な学習」に組み入れ、学校における地域学習の推進に資する。また、町民ギャラリーを広く提供するとともに、文化館・図書館と連携して、3館協働による地域文化の振興に努める。</p>				
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>2回の企画展を開催し、「長国の埋蔵文化財」（8月～10月）では98人、「阿波の幕末刀」（10月～1月）では584人の入館者があった。大里古墳（県指定史跡）の整備完了に伴い開催した講演会や武道公演演武（文化館で開催）では、町内外からの参加者があり、盛況であった。また、「海部自然・文化セミナー」、古文書講座では、毎回20人前後の参加者があった。</p> <p>町内の小学生を対象とした文化財巡りは、台風接近のため実施できなかったが、町教委と博物館ボランティアによる町内の城巡りに参画した。中学校との関係では、総合的な学習の一環として博物館での学習を行い、学校教育との連携を図った。</p> <p>また、町民ギャラリーとして作品発表の場を提供し、地域文化の振興に努めた。</p> <p>課題としては、従来年3回開催していた企画展が、2回の開催にとどまったことが挙げられる。</p> <p>平成30年度 有料入館者数 576人（1,228人） 総来館者数 2,287人（3,326人） 行事数 16（18）（ ）平成29年度</p>				
一次（内部）評価 (Check)	事業の達成度評価				
	A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている				
	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている				
	○ C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。				
D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。					
今後の取り組みの方向性	○	拡充	今後の方針 (Action)	地域住民にとって魅力の感じられる企画展を年3回開催し、関連の講演・展示解説や各種講座活動を行い、海部の歴史・文化の情報を積極的に発信する。 「海部刀」「大里古墳」「大里古銭」という特色ある博物館を県内外にアピールして、地域文化の核となる博物館づくりを進め、博物館が身近な存在となるよう様々な取組を展開する。。	
		継続			
		縮小			
		見直し			
		休廃止			
二次（外部）評価	様々な企画展や講演会等で住民や子どもたちの歴史文化の学習の場となっているが、昨年度に比べて入館者数が大きく減少している。博物館が住民の身近な存在になるよう、また、歴史文化の情報発信の核になるよう運営やイベントの内容の工夫に取り組んでいただきたい。				

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号		40
事業名	文化財保護・活用			教育振興計画の体系 基本方針5
事業費 (千円)	4,214	所管係	社会教育係	
事業目的	町内に所在する歴史的・文化的価値を有する各種文化財等の保存と活用を図り、地域住民の文化財等への理解を深め、文化財を通して、地域住民の文化的向上に資するとともに、文化財を町づくりに生かし、地域の創生につなげる。			
事業内容 (Plan)	<p>町文化財保護審議会を定期的に開催し、有識者から文化財に対する様々な意見や提言を得て、文化財の保護と活用を図る。審議会委員を対象に、文化財の巡回を計画し、個々の文化財の現状を把握し、保護活動に資する。町指定の文化財（史跡など）を保護・維持していくため、周辺の草刈等必要な措置を講じ、地域住民に文化財の大切さを伝える。</p> <p>博物館の展示に文化財を積極的に活用して、文化財の持つ魅力や地域の豊かな歴史・文化を伝え、文化財や地域の歴史・文化に対する理解を深めてもらうよう普及教育に努める。また、学校教育の中で文化財を地域学習の貴重な素材として活用することを提言する。</p> <p>伝統芸能の継承を図るため、各保存会等の行う事業を支援する。</p>			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>町文化財審議会を通年で3回開催し、様々な意見等を得て、文化財保護・活用に生かした。これに加え、審議会での文化財の巡視を実施し、各文化財の現状を把握して、文化財保護活動に資した。大里古墳（県史跡）の整備事業を県と連携して実施するとともに、これに伴う記念講演会や現地見学会を開催して、町内外の多くの参加者に地域の文化財の重要性を伝えた。また市町村及び郡文化財保護審議会に参加して、文化財保護・活用の研修を受け、その成果を活動に生かした。文化財の維持・管理面では、周辺地の草刈等を行い、文化財の保全に努めた。</p> <p>文化財の普及教育に関しては、穴喰化石蓮痕の説明板を設置して、分かりやすい説明を通して地域の文化財の大切さを伝えた。</p> <p>伝統芸能団体（穴喰祇園祭、団七踊り、だんじり太鼓、大里八幡だんじり引き唄）の行う保存事業に対して、補助金を給付するなど、その保存・継承に努めた。</p>			
一次（内部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
		B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
	○	C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性	<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方針 (Action)	<p>地域の文化財を保護するとともに、様々な活用することは、地域の創生を進めていく上で、極めて重要である。地域住民の文化財への理解を図るため、文化財の持つ魅力や意義を広く伝えるよう普及教育に努めていく。また、これと並行して各文化財の説明板等の設置を順次行い、文化財保護の整備を進めていく。</p> <p>さらに、学校教育と連携し、文化財を大切にする心の育成を図る。</p>	
二次（外部）評価	貴重な町民の財産である文化財の維持管理とともに文化的な活用に一層取り組んでいただきたい。特に大里古墳の整備が終わったので、効果的な活用に努めていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	41					
事業名	グローバル教育の推進		教育振興 計画の体 系	基本方針 6・2					
事業費 (千円)	11,513	所管係	学校教育係						
事業目的	児童生徒が英語や異文化に触れる機会を作り、コミュニケーション能力の向上や豊かな人間性を育む。								
事業内容 (Plan)	(1) 英語指導助手(ALT)の配置(2名) (2) 英語推進員の配置(2名) (3) グローバル教育推進会議の実施								
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>英語指導助手(ALT)の相談にしっかりと応じる事で、2名とも3年目継続を希望してくれた。日本の英語教育・町の児童生徒を理解できているALTが継続して勤務する意味は大きく、今後も丁寧な関わりを行っていききたい。また、英語推進員を1名から2名とすることで、発達段階に応じた英語授業が展開できるようになった。現場の先生方からも英語教育が非常に進んだとの意見を頂いた。グローバル教育推進会議は主にイベントの打合せとなっているため、次年度は英語教育についての話し合いを持つ機会を作っていきたい。</p> <p>(1) 英語指導助手(ALT)の配置(2名) (2) 英語推進員の配置(2名) (3) グローバル教育推進会議の実施(3回・土曜学習事業内)</p>								
一次(内 部)評価 (Check)	事業の達成度評価								
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている							
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている							
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。							
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。								
今後の取 り組みの 方向性	○	<table border="1"> <tr><td>拡充</td></tr> <tr><td>継続</td></tr> <tr><td>縮小</td></tr> <tr><td>見直し</td></tr> <tr><td>休廃止</td></tr> </table>	拡充	継続	縮小	見直し	休廃止	今後の方 針 (Action)	「話せる英語」を身につけるための事業を展開してい く。 ・ 英語推進会議の実施 ・ 英語指導助手の増 ・ 英語推進員の増 ・ 各種イベントの増
拡充									
継続									
縮小									
見直し									
休廃止									
二次(外 部)評価	福祉人権課との連携や英語推進員2名体制で幼稚園から小学校まで英語に触れる機会が できている。特に小学校の外国語活動から中学校の英語の接続がスムーズにできてい る。今後は使える生きた英語が身につくような取り組みを目指していただきたい。								

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	42
事業名	ICT教育の推進		教育振興計画の体系	基本方針2 基本方針6
事業費 (千円)	2,257	所管係	学校教育係	
事業目的	ICT環境の整備を進め、児童生徒の情報活用能力の育成や情報モラル教育の推進を図る。			
事業内容 (Plan)	<p>1 遠隔授業システム機器購入（2,257千円） ・少子化が進む海部小学校（モデル校）に遠隔授業システム機器を導入し、有効に活用して教育の質を高めると共に、小規模校のデメリットを解消する。</p> <p>2 タブレット端末・iPadの活用 ・海部小では特にiPadで試験的にQubenaを活用した学習を12月に5年生、1月に1年生で実施。</p> <p>3 学校校務支援システムの共同化 ・2020年導入に向け、県下一斉システムの共同化のため、今年度は議会の議決を得て、徳島県と委託契約を締結する。 ※Qubena・・・人工知能(AI)を搭載したタブレット型教材</p>			
事業の実施状況及び成果等 (Do)	<p>1 遠隔授業システム機器導入 ・6月補正で予算を計上、10月に導入した。その後調整の上、3月に城山荘とつなぎ6年生が遠隔授業を行った。</p> <p>2 タブレット端末・iPadの活用 ・28年度に海部小13台、29年度に海南小20台、宍喰小13台のタブレット（iPad）機器が導入されており、各授業で有効に活用している。特に、海部小では、1人1台利用できることで、慣れ親しみ使いこなす中で、授業をより深め、教育の質の向上が図られている。 ・海部小でQubena学習に試験的に取組み有効性の成果が出ている。</p> <p>3 学校校務支援システムの共同化 ・教職員の多忙化解消や働き方改革の推進のため、県下一斉にシステムを導入に向け、検討会を重ね、システム共同化に関する事務の管理・執行を徳島県に委託するため、規約を定めて3月議会で議会の議決を得た。 ・授業でICT機器を活用する機会が増えている。</p>			
一次（内部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取り組みの方向性		拡充	今後の方針 (Action)	<p>1. 遠隔授業システム機器の活用の増加と拡大及び海南小、宍喰小への導入を進める。</p> <p>2. タブレット端末・iPadは、31年度に海南小、宍喰小へも1人1台使用できるよう整備し、さらに活用を図る。</p> <p>3. 学校校務支援システムの共同化は、本稼働に向け、委託料を当初で計上（1,621千円）。</p> <p>4. 教員のスキルアップも必要である。</p>
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外部）評価	ICT機器を活用した授業方法の工夫改善によりわかりやすい授業が展開できている。iPadを海南小、宍喰小へも1人1台使用できるよう整備を進め、授業改善と教職員の意識改革を図っていただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

		評価番号 43	
事業名	キャリア教育の推進		教育振興計画の体系 基本方針6
事業費(千円)	0	所管係	学校教育係
事業目的	地元海陽町の生活を支えている人材との出会いや交流体験、職業に関わる体験などの活動をとおして、自らの生き方や将来の職業生活について考えを深め、社会的、職業的に自立し、社会の中で自分の役割や自分らしい生き方を実現させようという心を育成する。		
事業内容(Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高の連携したキャリア教育。 ○中学校の職場体験学習の実施。 ○キャリア教育のための環境整備。 		
事業の実施状況及び成果等(Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・海陽中学校 3年生が2日間、町内27事業所で職場体験を実施。 ・実喰中学校 3年生が2日間、町内26事業所で職場体験を実施。 ・各小中共に総合的な学習の時間に地域の方々を講師に様々な活動を実施。 <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や生徒が仕事調べ・仕事体験などを行うことで身のまわりの仕事や環境に関心を持ち、自分の将来について考え、自己の生き方や進路を見つめ直すことができた。 ・児童生徒のキャリア発達を育む連携システムが構築できた。 		
一次(内部)評価(Check)	事業の達成度評価		
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている	
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている	
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。	
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。		
今後の取り組みの方向性	<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方針(Action)	<ul style="list-style-type: none"> ・単に講話を聴くだけに終わらないよう、講話と授業をリンクさせるなど、各学校の教職員と十分連携して取り組む。 ・学校からの多様なニーズに対応するために、教育委員会での講師登録や調整、学校現場での実効性等については、計画をたてて取り組む。
二次(外部)評価	今後も学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、子どもたちの発達の段階にふさわしいキャリア教育を推進していただきたい。		

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

			評価番号	44
事業名	教職員の資質向上		教育振興 計画の体 系	基本方針6.2
事業費 (千円)	0	所管係	学校教育係	
事業目的	教員の資質向上を目的とした研修等の機会を提供し、小中学校において創意工夫ある教育活動が展開されるよう支援する。			
事業内容 (Plan)	ニーズに合致した研修会・講座等に積極的に参加する。町内の教員が学力向上をテーマに授業研究に取り組み、研究成果を発表することで研究成果を広く還元する。			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県主催の研修会への積極的な参加。 ・ 各校とも校内研修に努め、教職員の資質向上に務めた。 ・ 県内の学校をネットワークでつなぐ、学校支援システムの構築のグループに、小学校の部・中学校の部に参加。（2名） 			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性		拡充	今後の方 針 (Action)	学校教育の今日的課題に対応し、教師自身が自己の資質を高めることを視点とした教員研修会をさらに充実させ、教員の指導力の向上を図るため。今後も継続していく必要がある。
	○	継続		
		縮小		
		見直し		
		休廃止		
二次（外 部）評価	指導力向上のために研修会への積極的な参加と校内研修の充実に努めていただきたい。また、ICT機器を有効に活用した授業改善にも積極的に取り組んでいただきたい。			

平成31年度（平成30年度決算）事務事業評価シート

評価番号 45

事業名	学校閉庁日		教育振興 計画の体 系	基本方針6
事業費 (千円)	0	所管係	学校教育係	
事業目的	教職員の多忙化が社会問題化する中、教職員の働き方改革の推進に向けた対策のひとつとして学校閉庁日を設けることで、休暇が取得しやすい環境づくりを整え、心身のリフレッシュや省エネルギーの推進に繋げる。			
事業内容 (Plan)	平成27年12月文部科学省が教員の働き方改革を進めるための緊急対策を公表して以降、本町も検討してきた結果、夏休みの学校業務閑散期となるお盆の期間8月13日、14日、15日の3日間について試行的に学校閉庁日を設けた。			
事業の実 施状況及 び成果等 (Do)	<p>○7月13日臨時教育委員会を開催、7月18日臨時校長会を開催して、学校閉庁日についての案件を検討、協議の上、決定した。</p> <p>○学校・教育委員会では、ホームページ及び通知等を利用して保護者や関係機関等に対し「学校閉庁日」の趣旨の周知と理解の促進を図った。</p> <p>○年次休暇を十分に取得できない状況が恒常化し、長期休暇期間中においても、学習指導、研修、生徒指導対応、保護者との連絡、部活動指導など出勤せざるを得ない場合が多く、教職員が心身両面の健康の保持増進が図れない状況であったが、閉庁日を設けることで、教職員の健康増進、休暇取得の促進、省エネルギーの推進に繋がった。</p> <p>○緊急時の連絡先を教育委員会事務局とし、事務局から各学校長へ連絡することとしていたが、その間、保護者等からの連絡はなかった。</p>			
一次（内 部）評価 (Check)	事業の達成度評価			
		A 計画通り実施できた。具体的な成果があらわれている		
	○	B ほぼ計画通り実施できた。概ね具体的な成果があらわれている		
		C 計画通りではなかったが、事業目的は達成した。		
	D 計画より遅れている、あるいは未実施である。事業の見直しを含めた検討が必要である。			
今後の取 り組みの 方向性	<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 休廃止	今後の方 針 (Action)	引き続き、学校閉庁日を設け、教職員の働き方改革の推進に取り組んでいく。	
二次（外 部）評価	閉庁日を設けたことで教職員の休暇取得の促進、健康増進、省エネルギーの推進につながっている。今後も夏季休業日中の学校閉庁日を続けていただきたい。			

4. 外部評価委員会の意見

はじめに

前年度教育委員会が実施した事務事業が平成30年度海陽町教育基本方針に定める各施策に沿った適切なものであるかどうか45の主要事業について点検・評価を行いました。

(1) 一次評価（自己評価）について

平成30年度の実務事業の一次評価（自己評価）は、海陽町第2次教育振興計画（平成28年度から令和2年度までの5年間）の目標及び教育基本方針に基づいたものとなっており、適切に実施されていると認めます。

今回実施した45の実務事業ごとに事業内容（Plan）、事業の実施状況（Do）、評価（Check）、今後の方針（Action）が評価シート一枚にまとめられており、教育委員会や幼稚園・小中学校等でどのような事務事業が行われたか概ね分かるようになっています。また、実施した45の事業について、一つ一ついいない説明があり、質問に対しても適切な返答がありました。評価シートや説明により、事務事業の計画の進捗状況や成果、課題が十分に確認することができました。また、事務事業には成果指標や数値目標が設定されており、成果指標や数値目標の達成度から事務事業の評価を行うことは、評価に客観性を持たせる上で非常に重要です。ただ、成果指標や数値目標の設定が難しい事務事業については、具体的な表現方法など柔軟な指標の設定の工夫が必要であると思います。

(2) 主要な事務事業や新規の事務事業についての所見

45の実務事業それぞれに二次評価（外部評価）をしましたが、そのなかから主要な事務事業や新規の事務事業について学校教育と社会教育に分けてより詳しく所見を述べさせていただきます。

① 学校教育について

○子どもたちの基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得するため、町費助教諭の配置等により、わかりやすい授業のための指導方法や指導形態等の工夫が図られ、個に応じたきめ細やかな指導ができています。それを基に自ら学び自ら考える力など21世紀に通用する「生きる力」を育む学校教育が展開されていることを高く評価します。今後も学校教育を支える教職員の指導力の向上のため、研修等の充実を一層図るとともにICT機器を有効に活用した授業改善にも積極的に取り組んで欲しいと思います。

○新学習指導要領が令和2年度より小学校から順に実施されます。グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新が急速に進む予測困難なこれからの社会で子どもたちがたくましく生き抜く力の育成に対応するための改定です。小学校3・4年生から「外国語教育」の導入、小学校5・6年生の「英語の教科化」など社会の変化を見据えた新たな学びへと進化していきます。海陽町ではこうした流れを早くから取り入れ、英

語推進員2名とALTの配置により幼稚園から小学校まで英語に触れる機会をつくり、小学校の外国語活動から中学校の英語の接続がスムーズにできています。この先進的な取り組みを高く評価します。今後は使える生きた英語が身につくような取り組みを期待しています。

○ICT機器を活用した授業方法の工夫改善により、わかりやすい授業の展開や遠隔システムによる他校との交流など先進的な取り組みがすすんでいることを評価します。今後は、iPadをすべての小学校へ1人1台使用できるよう整備を進め、授業改善と教職員の意識改革を図って欲しいと思います。また、遠隔システムの使用頻度を高めるため、活用の工夫・改善にも取り組んでください。

○部活動バスの活用により、部活動の合同体制が確立し、海陽中・宍喰中の部活動数が維持できています。その結果、子どもたちの選択肢が広がり、県大会での好成績、四国大会出場など活発な活動につながっています。他に見られない先進的な取り組みであり高く評価します。

○地元高校魅力化補助事業により、学力向上や男子バスケットボール部の県大会優勝をはじめとする部活動の活性化が図られ、入学者数も前年度に比べて増加しています。幼・小・中・高の連携をさらに深め、幼稚園から高校まで一貫した教育の実現のため、郡内唯一の高校である海部高校の魅力化事業の継続を強く希望します。

○学校給食は地元食材の活用やアレルギー対応食も含め、安心・安全でおいしい給食の提供ができています。新海陽給食センターの運営も順調であることが伺えます。今後も安心・安全で魅力ある給食の提供のため、献立や調理の工夫・改善や一層の衛生管理に努めて欲しいと思います。

○防災教育は、防災マニュアルの見直しや防災訓練の実施により、教職員や子どもたちの防災意識も高まってきています。今後も家庭や地域、関係機関と連携しながら地域全体で命を守る体制づくりの推進に努めてください。

○本町へのUターン及び定住、地元就職の促進が図れる奨学金返還助成の新しい制度（おかえR eターン海陽奨学金支援事業）が創設されたことを高く評価します。広く住民へ制度周知をし、効果的な運営に努めてください。

○いじめや不登校等、多様化・複雑化した問題に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用により相談体制の充実が図られています。今後も相談体制の充実はもちろん、人権教育や道徳教育を充実させ、豊かな心が育めるよう取り組んでください。

○町内すべての小中学校にコミュニティスクール（学校運営協議会）が設置され、学

校と保護者及び地域住民と学校運営や子どもたちの状況について共有ができ、地域の教育力を生かした地域と共にある学校づくりが展開できています。今後は、町内それぞれのコミュニティスクールの運営等の情報交換や特色ある取り組みについての共有をさらに図り、海陽町全体としてのコミュニティスクールの構築を期待します。

○学校閉庁日を試行的に実施し、試行後のアンケートで教職員の休暇取得の促進、健康増進、省エネルギーの推進につながっていることがよく分かりました。今後も夏季休業日中の学校閉庁日続けることを強く望みます。

② 社会教育

○放課後子ども教室は、昼間仕事に従事する保護者に代わって、地域住民である指導員が見守り役をすることで、児童の安全、安心な居場所になっています。また、異学年の交流することで、健全な人間形成の場としての機能も果たしています。放課後子ども教室の継続を見据え、指導員の確保も計画的に行ってください。

○公民館活動は、地域意識の希薄化・コミュニティの弱体化が進むなか、地域活動の拠点である公民館を中心として、地域住民が交流親睦を深められるような分館交流グラウンドゴルフ大会や公民館大会などが行われ、公民館活動が地域の交流の場となっていることが伺えます。今後もたくさんの方が集う公民館活動になるよう活動内容の工夫にも積極的に取り組んでください。

○図書館の運営については、町には海南図書館、穴喰図書館の2館が設置され、充実しています。図書の貸出状況は前年度から減少していますが、おはなし会や移動図書館等、誰でも気軽に立ち寄れ、本に触れる機会が提供できる取り組みが多く見られます。今後も住民の読書活動や図書館利用促進のための取り組みの充実に期待します。

○文化館の運営については、年に4～5回の映画会、文化村祭り、文化協会祭、公民館大会等を開催する事により、生涯学習活動の場として文化館の有効活用が図れています。また、藍染や木工体験においても、よくばり体験の修学旅行生受入や子ども会の体験活動等で利用促進を図っているので一定の成果が伺えます。今後も生涯学習活動の場として文化館の有効活用のため、なお一層、各種イベント等の創意工夫を図ってください。

○文化館自主事業については、学校・地域・関係機関と密接な連携を図り、文化村祭での映画上映会を始め、ミュージカル「白雪姫」の公演、町内小学生を対象とした人形劇公演や、影絵ワークショップなどを開催し、子どもから大人までが、優れた芸術や文化を鑑賞する機会となっています。引き続き、豊かな芸術・文化に触れる機会をつくってください。

○文化村祭は、町文化協会・地域ボランティア・町博物館・その他関係機関との連携

を図り、町文化協会祭とあわせて、映画上映を始め、海部刀づくりのワークショップや、海部城をテーマとした参加型イベントなどをゴールデンウィーク期間中に実施しています。ゴールデンウィーク期間中に実施することで三世代の参加者が増加しています。参加者の増加により、生涯学習の拠点施設である海南文化村のアピールにもつながっていると感じます。引き続き子どもたちが楽しみながら町の歴史や文化が学べるよう楽しい事業の継続を望みます。

○人権教育の推進については、人権講演会、人権啓発映画上映会、人権コンサートの開催により、人権尊重の意識を高める機会となっています。特に 町内 3 1 会場で実施している分館巡回人権学習会は、地域住民が交流を図ることを通して相互に理解を深め、地域が一体となったコミュニティづくりの場になっています。今後も分館巡回人権学習会の継続とだれもが参加しやすい、特に若い年代層の参加が見込める企画の工夫を強く望みます。

○博物館の運営については、様々な企画展や講演会等で住民や子どもたちの歴史文化の学習の場となっていますが、昨年度に比べて入館者数が大きく減少しています。「海部刀」、「大里古墳」、「大里古銭」という特色ある博物館を県内外にアピールして、地域文化の核となる博物館づくりを積極的に進めてください。そして、博物館が身近な存在となるよう情報発信やイベント内容の工夫にも取り組んでください。

○文化財の保護・活用については、町文化財保護審議会を定期的で開催し、有識者から文化財に対する様々な意見や提言を得て、貴重な町民の財産である文化財の維持管理とともに文化的な活用に取り組んでいます。特に県史跡である大里古墳の整備事業を平成 30 年度に県と連携して行い、これに伴う記念講演会や現地見学会を開催して、町内外の多くの参加者に地域の文化財の重要性を伝えたことは評価できます。大里古墳の効果的な活用を強く望みます。

○新春ふれあい駅伝大会については、町内外の小学生から大人までがそれぞれチームをつくり毎年 1 月の第 3 日曜日に開催されており、地域スポーツの振興とふだん交流のない年代や他町の人が駅伝大会を通じて交流することができる地域の伝統的な大会となっています。昨年度に比べて参加チームが増加しており、情報発信や運営の工夫の成果であり、評価できます。今後も、町民の健康増進及びコミュニケーションの場となるようさらに参加チームを増やして欲しいと思います。

おわりに

今回、事務事業の二次評価を行い、一番強く感じたのは事務事業の多さです。職員の負担増がとて心配されます。限られた財源や職員数の中で、新たな教育課題や社会情勢の変化に的確に対応していくために、スクラップ・アンド・ビルドの導入や他部局、他団体が行っている類似事業の統合、町民の自助・共助に委ねることが可能なものについては、積極的に移譲するなど、現在行っている事務事業の見直しや改善を早急に行う必要がある

と考へます。

事務事業の点検評価を実施することで職員の負担もありますが、各施策を客観的に振り返ることができるなど、点検・評価の意義は大きいものがあるので、今後も適切に実施を続けてください。そして、教育委員会においては、今回の事務事業の点検・評価を基に仕事の再点検・再確認を行い、住民ニーズに応じた教育行政の一層の推進を図ってください。

令和元年7月29日

海陽町教育委員会外部評価委員会

叶崎 正

登井 啓文

資料 1

海陽町第2期教育振興計画体系

平成28年度～令和2年度（5年間）

基本方針 1	社会全体で子どもたちを育てる地域協働体構築の推進
推進施策①	海陽の子ども応援団の推進体制の充実
推進施策②	3館協働（文化館・博物館・図書館）による地域力の向上
推進施策③	スポーツ少年団、社会体育それぞれの連携の推進
推進施策④	家庭の教育力の充実
基本方針 2	主体的に学び合う、たくましく生きる力を育てる学校教育の充実
推進施策①	主体的に学び合う授業の展開に努め、たくましく生きるための確かな学力の向上
推進施策②	3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進
推進施策③	小規模化やグローバル化にともない、各学校の特色を生かした教育、幼・小・中・（高）の縦・横の連携を生かしての交流学习によるグローバル化の推進
推進施策④	特別支援教育を指導方法の根底に据え、教師の資質の向上
推進施策⑤	子どもたちが心身ともに豊かでたくましく育つ保健・体育指導の充実
推進施策⑥	主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底
基本方針 3	生涯にわたり楽しめる、生涯学習・生涯スポーツの振興
推進施策①	3館協働を中心とした生涯学習の推進
推進施策②	生涯学習・生涯スポーツに対する環境の充実
推進施策③	子どもから高齢者まで、気軽に参加でき、生涯にわたってスポーツ・レクリエーションに親しめる体制の充実
推進施策④	社会教育と学校教育との連携の推進
基本方針 4	一人ひとりを尊重する人権教育の推進
推進施策①	社会教育全体を通して、人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進
推進施策②	学習者の自己教育活動、意識変革に繋げる指導者の拡充
推進施策③	学校教育を通して、知的理解だけではない態度化・行動化に現われる人権意識の育成
推進施策④	人権尊重を基盤とする学習環境の整備
推進施策⑤	指導内容や方法についての工夫・改善を図ることができる指導者の資質の向上
基本方針 5	郷土の遺産である文化財の保存と活用の推進
推進施策①	文化財を魅力的にわかりやすく、まちづくりや地域の活性化にいかしていくための効果的な活用内容の整備
推進施策②	多くの住民が、とくに子どもたちが郷土の良さに対する理解を深め、継承・発展に繋げるふるさと学習の推進
推進施策③	文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進
推進施策④	様々な文化的な要素を持つ各施設や各文化財との連携
推進施策⑤	魅力をより理解するための新たな研究の推進
基本方針 6	社会の変化に対応する教育の推進
推進施策①	ICT環境の整備を進め、児童生徒の情報活用能力の育成や情報モラル教育の推進
推進施策②	小学校の外国語活動・英語科から中学校英語科の連携を中心とした英語教育全体の抜本的な充実、強化
推進施策③	学校の教育活動全体を通じて行う「働く」ことへの関心・意欲を高めるためのキャリア教育の推進
推進施策④	年々加速する環境問題に関心を持ち、課題解決に向けた環境教育の推進
推進施策⑤	今後の社会の変化を見据え、それに対応する教育が展開できる教員の資質の向上

資料 2

○海陽町教育委員会外部評価委員会設置要綱

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、海陽町教育委員会（以下「教育委員会」という。）に置く外部評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第 2 条 委員は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業について、外部の視点から評価を行い、教育委員会に評価結果を報告すること。
- (2) その他教育委員会が必要と認めること。

(外部評価委員の選任)

第 3 条 委員は教育等に学識を有する者 2 人を教育委員会が選任する。

- 2 委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は再任することができる。

(会議)

第 4 条 委員は教育委員会から事務事業の事後評価の報告が行われた場合、外部評価を行うものとする。

- 2 委員会は必要があると認めたときは、委員以外の者を出席させて意見又は説明を聞くことができる。

(その他)

第 5 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が定める。

附則

この要綱は、令和元年 6 月 26 日から施行する。